

令和2年度

教育委員会

教育行政点検・評価

報告書

(対象：令和元年度)

令和2年11月

小美玉市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	教育委員会の活動状況	2
1	教育委員会の開催状況	2
2	教育委員会審議案件	3
3	総合教育会議の開催状況	6
4	その他の活動	7
III	点検及び評価	8
1	点検・評価の対象	8
2	点検・評価の方法	8
3	小美玉市教育振興基本計画に掲げる施策	9
4	施策体系	10
5	基本施策の実施状況	15
◆	基本方針1 子供たちの自主性・自立性を培い、自ら学び、たくましく社会を生き抜く力を育みます	
	【基本施策1】命を大切にする心の育成	15
	【基本施策2】健やかな体の育成	17
	【基本施策3】社会を生き抜く力の育成	19
	【基本施策4】就学前教育の充実	21
	【基本施策5】次代を担う青少の健全育成	23
◆	基本方針2 確かな学力の定着を図るとともに活用する力を伸ばし、子供たち一人一人の可能性を広げます	
	【基本施策1】確かな学力の定着	25
	【基本施策2】新たなニーズに対応した教育の推進	27
	【基本施策3】キャリア教育の充実	29
	【基本施策4】情報活用能力を育てる教育の充実	31
	【基本施策5】インクルーシブ教育の充実	33
◆	基本方針3 地域がもつ特色や実態に合わせたより良い学習環境をつくります	
	【基本施策1】小中一貫教育の推進と学校の適正規模・適正配置	35
	【基本施策2】教職員の業務の質を高めるための支援やサポート体制の充実	37
	【基本施策3】安全・安心で、地域とつながる教育施設整備の推進	39
	【基本施策4】いじめや不登校等、児童生徒のためのサポート体制の充実	41

【基本施策 5】 地域に開かれた学校の推進	43
◆基本方針 4 生涯にわたる市民の学びや文化芸術活動を目指した学習環境をつくり ます	
【基本施策 1】 生涯学習社会の実現	45
【基本施策 2】 知識の醸成と価値創造の場の充実	47
【基本施策 3】 文化芸術の創造・発信	49
◆基本方針 5 生涯にわたる市民のスポーツ活動の活性化を目指したスポーツ環境を つくります	
【基本施策 1】 子供のスポーツ機会の充実	51
【基本施策 2】 生涯スポーツ活動の推進	53
【基本施策 3】 スポーツ環境の充実	55
【基本施策 4】 スポーツ施設の充実	57
6 外部点検・評価委員の総合評価	59

I はじめに

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、学識経験を有する者の知見の活用を図りつつ点検・評価を行い、その結果について議会に報告するとともに、公表しなければならないとされています。

教育委員会制度は、首長から独立した行政委員会として位置付けられた教育委員会が、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、教育長及び事務局が具体の事務を執行するものです。

このため、教育委員会の行政の執行状況について、教育委員会自ら事後にチェックする必要性が高いものと考えられ、この点検・評価は、教育行政の基本的な方針の策定と同様に、教育長に委任せず教育委員会が管理・執行しなければならない事務として位置付けられています。

また、平成 30 年度から 10 年間を計画期間とする「小美玉市教育振興基本計画」の進行管理を併せて行っており、計画の推進を図っています。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 教育委員会の活動状況

◆教育委員

職名	氏名	任期
教育長	加瀬博正	平成30年7月1日～令和3年6月30日
教育長職務代理者	山口和弘	平成30年6月20日～令和4年6月19日
委員	中村三喜	平成29年6月20日～令和3年6月19日
委員	鶴町庄二	平成30年6月20日～令和4年6月19日
委員	狩谷卓郎	令和元年6月20日～令和5年6月19日
委員(保護者)	柴田千青	平成28年6月26日～令和2年6月25日

1 教育委員会の開催状況 (平成31年4月1日～令和2年3月31日)

教育委員会の会議は、小美玉市教育委員会会議規則第2条第2項に基づき定例会を開催し、必要な場合は、同規則第2条第3項に基づき臨時会を開催しています。

開催日	委員会	議案件数	報告件数	協議件数
平成31年4月26日	4月定例会	2	7	0
令和元年5月22日	5月定例会	5	6	1
令和元年6月27日	6月定例会	1	2	0
令和元年7月22日	7月定例会	2	3	0
令和元年8月21日	8月定例会	7	4	0
令和元年9月25日	9月定例会	4	2	0
令和元年10月25日	10月定例会	2	2	0
令和元年11月25日	11月定例会	6	3	0
令和元年12月25日	12月定例会	0	2	0
令和2年1月27日	1月定例会	1	4	0
令和2年2月26日	2月定例会	6	2	0
令和2年3月16日	3月臨時会	3	1	0
令和2年3月25日	3月定例会	12	2	0
合計		51	40	1

2 教育委員会審議案件

開催日	件名（議案名・報告名）	
平成31年4月26日	議決	小美玉市児童生徒の就学に関する規則の一部を改正する規則について
	議決	小美玉市スポーツ交流施設条例施行規則の一部を改正する規則について
	報告	小美玉市放課後児童健全育成事業実施規則の一部改正について
	報告	学校事務共同実施グループ事務長の任命について
	報告	小美玉市ティーム・ティーチング非常勤講師の任命について
	報告	小美玉市社会教育委員兼公民館運営審議会委員の委嘱について
	報告	小美玉市青少年相談員の委嘱について
	報告	就学援助について
	報告	区域外就学及び指定校変更について
	令和元年5月22日	議案
議案		小美玉市社会教育委員兼公民館運営審議会委員の委嘱について
議案		小美玉市学校給食運営委員会委員の委嘱について
議案		小美玉市義務教育学校開校準備委員会委員の委嘱について
議案		令和元年度教育予算（補正予算）について
議案		小美玉市青少年相談員の委嘱について
報告		小美玉市教育支援委員会委員の任命について
報告		小美玉市学校運営協議会委員の任命について
報告		学校給食献立会議員の任命について
報告		小美玉市学校評議員の委嘱について
報告		就学援助について
報告		区域外就学及び指定校変更について
協議		美野里地区公立幼稚園の小学校教育への連携・接続（案）について
令和元年6月27日	議案	茨城県有形文化財指定申請に係る意見書について
	報告	就学援助について
	報告	区域外就学及び指定校変更について
令和元年7月22日	議案	令和2年度小・中学校において使用する教科用図書並びに小・中学校特別支援学級（知的障害）において使用する教科用図書の採択について
	議案	茨城県有形文化財指定申請に係る意見書について
	議案	平成30年度小美玉市一般会計（教育費）の決算について
	報告	就学援助について

開催日	件 名（議案名・報告名）	
令和元年 7 月 22 日	報告	区域外就学及び指定校変更について
令和元年 8 月 21 日	議案	使用料等の消費税等相当額の加算に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
	議案	工事請負契約の締結について
	議案	動産の買入れ契約の締結について
	議案	市立幼稚園の今後のあり方についての基本的な考え方について
	議案	小美玉市部活動の在り方に関する活動方針の策定について
	議案	令和元年度教育予算（補正予算）について
	議案	小美玉市教育委員会職員の任免について
	報告	小美玉市放課後児童健全育成事業実施委託事業者の選定結果について
	報告	就学援助について
	報告	区域外就学及び指定校変更について
	報告	小美玉市教育委員会事務局職員の人事発令について
	令和元年 9 月 25 日	議案
議案		小美玉市学校給食費徴収規則の一部を改正する規則について
議案		小美玉市立幼稚園管理規則の一部を改正する規則について
議案		令和 2 年度小美玉市立幼稚園園児募集要項について
報告		就学援助について
報告		区域外就学及び指定校変更について
令和元年 10 月 25 日	議案	小美玉市立幼稚園児預かり保育に関する規則の一部を改正する規則について
	議案	小美玉市基金条例の一部を改正する条例について
	報告	就学援助について
	報告	区域外就学及び指定校変更について
令和元年 11 月 25 日	議案	令和元年度教育予算（補正予算）について
	議案	小美玉市立小学校の通学路の設定等に関する基準について
	議案	通学路等における児童等の安全確保に関する指針について
	議案	小美玉市教育に関する事務の職務権限の特例に関する条例の制定について
	議案	教育に関する事務に係る議案に対する意見について
	報告	小美玉市立（仮称）竹原幼稚園の設置場所について
	報告	区域外就学及び指定校変更について
	報告	小美玉市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
令和元年 12 月 25 日	議案	就学援助について

開催日	件名（議案名・報告名）	
令和元年12月25日	議案	区域外就学及び指定校変更について
令和2年1月27日	議案	小美玉市基金条例の一部を改正する条例について
	報告	小美玉市学校給食運営委員会委員の任命について
	報告	就学援助について
	報告	区域外就学及び指定校変更について
	報告	小美玉市義務教育学校開校準備委員会委員の委嘱について
令和2年2月26日	議案	小美玉市任期付市費負担教職員の採用，給与及び勤務条件等の特例に関する条例の制定について
	議案	行政組織機構改革に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について
	議案	小美玉市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の制定について
	議案	令和元年度教育予算（補正予算）について
	議案	令和2年度教育予算（当初予算）について
	議案	小美玉市義務教育学校開校準備委員会委員の委嘱について
	報告	就学援助について
	報告	区域外就学及び指定校変更について
令和2年3月16日	報告	新型コロナウイルスの対応について
	議案	令和元年度末・令和2年度始県費負担教職員の任免に関する内示について
	議案	小美玉市社会教育委員兼公民館運営審議会委員の委嘱について
	議案	令和元年度教育予算（補正予算）について
令和2年3月25日	議案	小美玉市学校設置条例の一部を改正する条例について
	議案	市長の権限に属する事務の一部を補助執行させることについて（協議）
	議案	行政組織機構改革に伴う小美玉市教育委員会関係規則の整理に関する規則の制定について
	議案	行政組織機構改革に伴う小美玉市教育委員会関係規程の整理に関する訓令の制定について
	議案	行政組織機構改革に伴う小美玉市教育委員会関係告示の整理に関する告示の制定について
	議案	小美玉市任期付市費負担教職員の採用，給与及び勤務条件等の特例に関する条例施行規則の制定について
	議案	小美玉市立学校管理規則の一部を改正する規則について
	議案	小美玉市学校運営協議会規則の一部を改正する規則について
	議案	小美玉市部活動の在り方に関する活動方針の一部改正について
	議案	小美玉市青少年相談員設置規則の一部を改正する規則について

開催日	件名（議案名・報告名）	
令和2年3月25日	議案	小美玉市立幼稚園長の任命について
	議案	小美玉市教育委員会職員の任免について
	報告	就学援助について
	報告	区域外就学及び指定校変更について

※審議案件のほか、定例会ごとに市内小中学校及び教育委員会事務局各課の状況報告をしています。

3 総合教育会議の開催状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により、教育委員会制度が大きく変わり、教育委員長と教育長を一本化した新たな「教育長」の設置とともに、すべての地方公共団体で「総合教育会議」の設置が定められました。

総合教育会議は、市長と教育委員会で構成され、教育行政の大綱の策定、教育の条件整備など重点的に構ずるべき施策や、児童・生徒の生命・身体の保護など、緊急の場合に講ずべき措置についての協議・調整を行っています。

第1回 小美玉市総合教育会議	
開催日	平成31年4月24日（水）
議題	・公立幼稚園（美野里地区）の統合について
出席者	島田市長，加瀬教育長，中村教育委員，澤畠教育委員，鶴町教育委員，山口教育委員，柴田教育委員
第2回 小美玉市総合教育会議	
開催日	令和元年5月22日（水）
議題	・美野里地区公立幼稚園の小学校教育への連携・接続について ・園バス運用に向けた整備について
出席者	島田市長，加瀬教育長，中村教育委員，澤畠教育委員，鶴町教育委員，山口教育委員，柴田教育委員

4 その他の活動

教育委員は、教育委員会の会議への出席以外に学校訪問、各種行事等にも参加しています。

	活 動 内 容
4月	・ 県費教職員辞令交付式 ・ 小川南小学校開校式 ・ 総合教育会議 ・ 入学（園）式（小学校 11 校, 中学校 4 校, 幼稚園 5 園）
5月	・ 市町村教育委員会連合会定期総会（常陸太田市）・ 総合教育会議 ・ 運動会（小学校 9 校, 幼稚園 1 園）
6月	・ 学校（園）訪問（小学校 10 校, 中学校 2 校, 幼稚園 4 園） （訪問日：6月 17・20・25・27・28日）
7月	・ 学校（園）訪問（小学校 1 校, 中学校 2 校, 幼稚園 1 園） （訪問日：7月 1日） ・ 事務事業点検評価
9月	・ 体育祭（中学校 4 校） ・ 運動会（小学校 2 校, 幼稚園 1 園）
10月	・ 運動会（幼稚園 3 園） ・ 市町村教育委員会研修会
11月	・ 七つの祝い式典
1月	・ 成人式典
3月	・ 卒業（園）式（小学校 11 校, 中学校 4 校, 幼稚園 5 園） ・ 県費教職員辞令交付式

Ⅲ 点検及び評価

1 点検・評価の対象

点検評価の対象は、教育委員会の活動状況及び小美玉市教育振興基本計画に掲げた基本施策（22 施策）における令和元年度の事業実績としました。

2 点検・評価の方法

① 自己点検・評価

小美玉市教育振興基本計画の基本施策（22 施策）を点検・評価するにあたり、「成果に対する評価」、「取組に対する評価」、「改善の必要性」、「教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況」の4項目について、A・B・C・Dの4段階で主管課等が自己点検・評価を行い、「課題及び今後の方向性等」について整理しました。

ランク	評価A～Dの内容について
A 確実な成果を出している	○目標値に向けて計画のとおり実施することができ、優れた取組が見られた。 ○当初の目的を達成し、事業が完了した。
B 一定の成果を出している	○施策としての充実した事業が行われた。 ○目標値への具体的な取組が十分に表れている。
C やや成果が低い	○取組方法等を見直すことにより今以上の成果が期待できる。 ○施策推進の計画や方法を再考する必要がある。 ○更に工夫・改善が必要である。 ○一定の成果を上げて事業が完了したが、課題が残った。
D 成果が低い	○費用対効果がほとんど上がっていない。 ○内容の抜本的な見直しや、廃止の検討が必要である。

② 教育長及び教育委員の点検・評価（令和2年7月22日実施）

主管課等による自己点検・評価の結果について、教育長及び教育委員が点検・評価を行いました。評価方法は上記①と同様です。

③ 外部の点検・評価（令和2年8月26日，8月28日実施）

上記②の教育長及び教育委員の点検・評価について，学識経験者により外部点検・評価会議で評価を行いました。評価方法は上記①と同様です。教育委員会の活動状況についても併せて報告しました。

小美玉市事務事業点検評価委員

（順不同，敬称略）

氏 名	備 考
元 木 理 寿	常磐大学総合政策学部准教授
澤 畠 照 子	前小美玉市教育委員会教育委員
大 山 徳	前小美玉市立玉里幼稚園長

3 小美玉市教育振興基本計画に掲げる施策

小美玉市教育振興基本計画は、「教育基本法」に基づき総合的かつ計画的に教育施策を推進するための基本的な計画であり、本市の最上位計画である「小美玉市第2次総合計画」と整合を図りつつ、本市における教育の基本方針を定め、計画的かつ効率的な教育行政に資することを目的としています。

小美玉市の教育を推進していくために，以下の5つの教育施策の基本方針を掲げています。

- 基本方針1 子供たちの自主性・自立性を培い，自ら学び，たくましく社会を生き抜く力を育みます。
- 基本方針2 確かな学力の定着を図るとともに活用する力を伸ばし，子供たち一人一人の可能性を広げます。
- 基本方針3 地域がもつ特色や実態に合わせたより良い学習環境をつくれます。
- 基本方針4 生涯にわたる市民の学びや文化芸術活動を目指した学習環境をつくれます。
- 基本方針5 生涯にわたる市民のスポーツ活動の活性化を目指したスポーツ環境をつくれます。

4 施策体系

基本方針	基本施策（項）	基本方向（節）	主な事業	担当課	
基本方針 1 子供たちの自主性・自立性を培い、自ら学び、たくましく社会を生き抜く力を育みます。	1 命を大切に 心の育成	1 道德教育の充実	道德教育の推進	指導室	
		2 命を大切に する教育 の推進	発達段階に応じた命を大切に する教育の推進	指導室	
			赤ちゃんふれあい体験事業	健康増進課	
		3 人権教育の充実	人権教室の開催、人権に関する研修	指導室	
	2 健やかな 体の育成	1 学校体育の充実	体育指導の工夫・改善	指導室	
			体力の向上	指導室	
			運動部活動の充実	指導室	
		2 食育指導と 学校給食の 充実	献立会議の開催	学校給食課	
			給食時の食に関する指導	学校給食課	
			学級活動等での食に関する指導	学校給食課	
			地場産品活用の推進	学校給食課	
			郷土料理・世界の料理・行事食の実施	学校給食課	
			夏休み中学生料理教室の開催	学校給食課	
		3 学校保健と 健康教育の 充実	教員向けのアレルギーに関する研修	指導室	
			各小・中学校の養護教諭による養教部会の開催	指導室	
			専門医による講義	指導室	
			がん教育の出前授業	指導室	
	3 社会を 生き抜く 力の育成	1 自主性・ 自立性を 育成する 教育の 推進	自然教室	指導室	
			総合的な学習の時間の充実	指導室	
			農業体験の実施	指導室	
		2 豊かな心 と想像力 を育む 読書活動 の推進	学校司書配置事業	指導室	
			学校・学級で取り組む読書活動	指導室	
			みんなにすすめたい一冊の本事業	指導室	
		3 危機管理 能力の 育成	学校安全教育の充実	指導室	
		4 就学前 教育の 充実	1 幼児教育 の充実	集団遊びを通じた教育	指導室 幼稚園
				野菜などの栽培活動	指導室 幼稚園
	自然や人との関わりを重視した活動の充実			指導室 幼稚園	
	幼稚園計画訪問			指導室	
	研修会の実施			指導室	
	預かり保育事業			学校教育課	
	2 保幼小 連携の 推進		接続を意識したプログラム作成	指導室	
			小学校低学年児童等との交流活動の実施	指導室	
			幼児期教育接続推進のための研修会の実施	指導室	
			小学校の授業参観	指導室 幼稚園	
			交流会	指導室 幼稚園	

	5 次代を担う青少年の健全育成	1 地域における青少年育成体制の整備促進	幼児教育接続推進	指導室 幼稚園
			社会教育団体への支援	生涯学習課
			子ども会育成団体への支援	生涯学習課
			各地域の青少年健全育成団体への支援	生涯学習課
			七つの祝い式典	生涯学習課
			成人式典	生涯学習課
			連携・協力体制の整備促進	生涯学習課
		「青少年の健全育成に協力する店」の登録促進	生涯学習課	
		2 青少年の体験活動の推進	子ども議会	生涯学習課
			ジュニアリーダー研修会	生涯学習課
			こどもまつり	生涯学習課
		3 青少年の居場所づくり	放課後子どもプラン	学校教育課
			市内及び特別巡回パトロール	生涯学習課
		4 家庭における教育力の向上	家庭教育学級の実施	生涯学習課
			家庭教育学級の内容の充実	生涯学習課
マナーアップ 朝のあいさつ運動	幼稚園			
地域の子供たちへの安全配慮	幼稚園			
規範意識の醸成と基本的生活習慣の定着	指導室			

基本方針	基本施策（項）	基本方向（節）	主な事業	担当課	
基本方針 2 確かな学力の定着を図るとともに活用する力を伸ばし、子供たち一人一人の可能性を広げます。	1 確かな学力の定着	1 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と活用する力の育成	全国学力・学習状況調査	指導室	
			茨城県学力診断のためのテスト	指導室	
			ティーム・ティーチングによる指導	指導室	
			習熟度別指導	指導室	
	2 新たなニーズに対応した教育の推進	2 言語活動の充実	1 新しい時代に必要となる資質・能力の育成	学校訪問指導	指導室
				学校訪問指導	指導室
		2 特色ある教育の推進	2 特色ある教育の推進	地域資源を活用した自然体験学習の充実	指導室
				ALT 配置事業	指導室
				国際交流	指導室
				学びの広場サポート事業（小学校 算数）	指導室
				学びの広場サポート事業（中学校 算数）	指導室
				地域資源を活用した体験学習の充実	指導室
	3 キャリア教育の充実	1 系統的なキャリア教育の推進	職場見学・職場体験の実施	指導室	
			いばらきものづくり教育フェアへの参加	指導室	
	4 情報活用能力を育てる教育の充実	1 ICT教育の推進	パソコン教室情報教育機器の整備・充実	学校教育課	
			電子黒板等の外部機器の整備・充実	学校教育課	
			デジタル教科書等の授業用コンテンツの整備・充実	学校教育課	
			情報教育支援機器の整備・充実	学校教育課	
			学校 ICT 教育環境整備の推進	学校教育課	
	5 インクルーシブ教育の充実	1 特別支援教育の充実	生活介助員の配置	学校教育課	
障がいに応じた特別支援学級の設置			指導室		
特別支援教育に関わる教職員の研修等の実施			学校教育課		
一貫した教育的支援			指導室		

		2 ユニバーサルデザインによる教育の推進	特別支援教育理解啓発リーフレットの配布	指導室
			スクールソーシャルワーカー配置事業	指導室
			授業のユニバーサルデザイン化	指導室
			わかりやすい掲示, 見本の活用	指導室 幼稚園

基本方針	基本施策(項)	基本方向(節)	主な事業	担当課
基本方針3 地域がもつ特色や実態に合わせたより良い学習環境をつくりまします。	1 小中一貫教育の推進と学校の適正規模・適正配置	1 地域の実態に合わせた小中一貫教育の推進	小中連携・小小連携プロジェクト会議	指導室
		2 学校の適正規模・適正配置	学校再編後のスクールバス運行	学校教育課 施設整備課
	統合校建設事業		施設整備課	
	2 教職員の業務の質を高めるための支援やサポート体制の充実	1 教職員の資質能力の向上	校外研修	指導室
			校内研修	指導室
		2 学校の組織力の強化と教職員サポート体制の充実	ストレスチェックの実施	学校教育課
			校務支援システム操作研修会	指導室
	3 安全・安心で、地域とつながる教育施設整備の推進	1 教育施設整備の推進	長寿命化計画の作成	施設整備課
			センターの統合事業	学校給食課
		2 学校安全対策の推進	通学路合同点検	学校教育課
			避難訓練・引渡し訓練	指導室
	4 いじめや不登校等、児童生徒のためのサポート体制の充実	1 教育相談体制の充実・強化	教育相談体制の確立	指導室
			教育支援体制の確立	指導室
		2 学習機会の確保	就学援助(要保護・準要保護)	学校教育課
			特別支援教育就学奨励費	学校教育課
	5 地域に開かれた学校の推進	1 地域の学校支援体制の充実・強化	学校支援ボランティア活用事業	指導室
コミュニティ・スクール導入等促進事業			学校教育課	

基本方針	基本施策(項)	基本方向(節)	主な事業	担当課
基本方針4 生涯にわたる市民の学びや文化芸術活動を目指した学習環境をつくりまします。	1 生涯学習社会の実現	1 生涯学習活動の推進	学習情報を得る機会の充実	生涯学習課
			学習相談体制の充実	生涯学習課
			市民講座等の内容充実	生涯学習課
			障がい者に関する学習機会の充実	生涯学習課
			自主講座団体育成	生涯学習課
			出前講座	生涯学習課
			老人クラブへの支援	生涯学習課
			市民への学習情報の提供	生涯学習課
		2 学習機会の充実	親子体験講座[親子移動教室]	生涯学習課
			特別講座	生涯学習課
			ふれあい講座[わんぱく教室]	生涯学習課
			高齢者大学	生涯学習課
			ふれあい事業[自然観察教室]	生涯学習課
			市民講座[定期]	生涯学習課

		市民講座[短期]	生涯学習課
	3 学習成果の活用	人材バンクの登録	生涯学習課
		作品展の開催	生涯学習課
	4 各種団体の活動支援と指導者の育成	生涯学習活動関連機関・団体等との連絡体制の構築・強化	生涯学習課
		指導者の育成	生涯学習課
		社会教育主事、社会教育指導員の活用	生涯学習課
	5 学習環境の整備・充実	施設・設備の充実	生涯学習課
		生涯学習施設の管理運営	生涯学習課
		施設利用に関する情報の提供	生涯学習課
		掲示物の収集及び設置	生涯学習課
2 知識の醸成と価値創造の場の充実	1 読書活動の推進	図書館講座	生涯学習課
		図書館まつり	生涯学習課
		おはなし会	生涯学習課
		ブックスタート	生涯学習課
	2 図書館サービスの充実	図書館リクエスト	生涯学習課
		レファレンスサービス	生涯学習課
		相互貸借サービス	生涯学習課
		移動図書館サービス	生涯学習課
		ブックスタートボランティアの育成	生涯学習課
		読み聞かせ講座	生涯学習課
		図書館ボランティアの育成	生涯学習課
		図書館資料の適切な管理	生涯学習課
	郷土資料のデジタル化	生涯学習課	
			施設の整備
3 文化芸術の創造・発信	1 文化芸術活動の充実	住民劇団・住民楽団の支援	生涯学習課
		指導者の育成・情報提供	生涯学習課
	2 文化財の保護と史・資料館の充実	文化財の適正な保存・活用	生涯学習課
		収蔵施設の確保	生涯学習課
		常設展示リニューアル事業	生涯学習課
		特別展・企画展等の開催	生涯学習課
		教育普及事業の実施	生涯学習課
		史料館報の刊行	生涯学習課
		埋蔵文化財発掘調査報告書の刊行	生涯学習課
		出土品展の開催	生涯学習課
	郷土芸能保存会への支援	生涯学習課	
	民俗文化財保護活動への支援	生涯学習課	
	3 市民の文化芸術に触れる機会の充実	育成事業	生涯学習課
		コスモスプロジェクト	生涯学習課
		文化講演会	生涯学習課
サポーター事業		生涯学習課	
小美玉市まるごと文化ホール計画推進事業		生涯学習課	
		広報戦略事業	生涯学習課

基本方針	基本施策（項）	基本方向（節）	主な事業	担当課	
基本方針5 生涯にわたる市民のスポーツ活動の活性化を目指したスポーツ環境をつくります。	1 子供のスポーツ機会の充実	1 幼児期における運動・スポーツ機会の充実	スポーツ教室（水泳教室・親子スキー教室等）	スポーツ推進課	
			プレ・すぽ〜つ教室	スポーツ推進課	
			夢先生派遣事業	スポーツ推進課	
		2 子供を取り巻くスポーツ環境の充実	1 統合型地域スポーツクラブ活動支援	統合型地域スポーツクラブ活動支援	スポーツ推進課
	スポーツ少年団活動支援			スポーツ推進課	
	2 生涯スポーツ活動の推進	1 若者・働く世代に対する運動・スポーツの推進	働く世代を対象としたスポーツ教室		スポーツ推進課
			2 高齢者に対する運動・スポーツの推進	高齢者大学（スポーツ）	生涯学習課
		3 障がい者に対する運動・スポーツの推進		障がい者スポーツ・レクリエーション教室（地域生活支援事業）	社会福祉課 スポーツ推進課
			障がい者スポーツ体験イベント	スポーツ推進課	
		4 スポーツ活動情報等の提供	LINE を利用した情報発信		スポーツ推進課
			小美玉スポーツ新聞を利用した情報発信		スポーツ推進課
			転入者へLINE 勧誘チラシの配布		スポーツ推進課
		3 スポーツ環境の充実	1 スポーツ活動を支援する体制の整備	体育協会支援	スポーツ推進課
	スポーツ少年団支援			スポーツ推進課	
	スポーツ推進委員活動			スポーツ推進課	
	スポーツ団体等指導者の育成			スポーツ推進課	
	総合型スポーツクラブの利用促進			スポーツ推進課	
	2 特色あるスポーツ施策の推進		スポーツ優秀選手・優秀団体表彰		スポーツ推進課
			地域特性を生かしたスポーツ活動		スポーツ推進課
	3 多様なスポーツ交流の推進		トップアスリートスポーツ教室		スポーツ推進課
スポーツ・レクリエーション・イベント等の開催			スポーツ推進課		
4 スポーツ施設の充実			1 スポーツ施設環境の充実	スポーツ施設維持管理	スポーツ推進課
	スポーツ施設等の設備更新・整備	スポーツ推進課			

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名	指導室
------	-----

No.1	施策名	命を大切にする心の育成						教育振興計画の位置づけ	1-1
施策の概要	目的	命を大切にする心や他者を思いやる心を育み、自らも地域社会の一員であることの自覚を促します。そのために、学校教育活動全体を通じて人権教育や道徳教育の充実に努めるとともに、命を大切にする教育を推進します。 また、ボランティア活動を通して多くの人との交流を図ります。							
	取組内容	「考える道徳」、「議論する道徳」への転換のための研修会や、人権に関する校内研修会を実施する。 児童生徒には道徳の時間を中心とした教科のなかで「命」の大切さについて指導していく。 また、学校教育活動におけるボランティア活動の充実を図っていく。 【重点事業】 ・道徳教育の推進							
	達成すべき目標	①全国学力・学習状況調査の調査項目「自分にはよいところがあると思う」で、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する割合を小学生85%以上、中学生70%以上とする。 ②赤ちゃんふれあい体験事業の参加者数を79人以上とする。 ③人権教育に関する校内研修を3回以上とする。 ④全国学力・学習状況調査で「地域社会などでボランティアに参加したことがある」と回答する割合を小学生65%以上、中学生70%以上とする。							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		市の道徳教育部では、部員研修会を4/11, 6/12.2/20に行った。「考える道徳」、「議論する道徳」への質的変換や、評価の在り方について協議を行った。 道徳を中心に、「命」の大切さを多面的・多角的に考える学習を行った。小学校・中学校・高校の授業を公開し、発達段階に応じた指導の在り方について教師の理解を深めた。							
施策の経費	予算事業名	款 項 目 大 事 業 事 業 名							
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額(千円)								
	決算額(千円)								
	執行率(%)								
施策の目標	指標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
	① 自尊感情の状況	小学生	79.4%	82.3%	85.3%	80.6%	83.1%	84.1%	85.0%
		中学生	65.6%	69.7%	78.2%	73.3%	68.5%	69.3%	70.0%
	② 赤ちゃんふれあい体験事業の参加者数		69人	125人	189人	318人	76人	77人	79人
	③ 人権教育に関する校内研修会の実施回数		1回	2回	2回	2回	2回	3回	3回
④ ボランティア活動への参加状況	小学生	62.8%	66.1%	69.8%	質問事項 廃止	64.3%	64.6%	65.0%	
中学生	68.1%	68.8%	71.6%	69.4%		69.7%	70.0%		

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	B	自尊感情の状況は、令和元年度目標値(小学校82.2%、中学校67.8%)に対し、小学校は1.6%下回ったが、中学校では5.5%上回った。赤ちゃんふれあいでは、中学生251人、先生・親子67人が参加し前年度から大幅な増加となった。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	道徳教育の推進については、市の道徳教育部会での授業研究会や研修を実施し、指導の工夫や評価について学び、「考え、議論する道徳」への理解を深めた。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	B	学校教育全体を通して、自他の命の大切さについて考える場面をさらに工夫して設けていく必要がある。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	命を大切にすることの教育の充実は今後も継続すべきものであるが、児童生徒を取り巻く社会や環境の変化に応じて、柔軟に指導していく必要がある。 人権教育に関する教職員の研修は、各校2回以上行っている。今後は、人権教育の日常化を図り、児童生徒も人権意識を高め、実践していけるよう質的に改善することも必要である。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	①自尊感情の状況については、前年度を下回っているが、中学生はR4の目標値に達している。 ②赤ちゃんふれあい体験事業については、乳幼児健診時に実施していたが、中学校に訪問し実施することで、参加者数が令和4年度目標値を大幅に上回っている。 ③人権教育に関する校内研修会については、R3年度中に目標値である年間3回実施できるよう各学校と調整を図る。 ④ボランティア活動への参加状況については、全国学テに同様の質問がないため、評価できなかった。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	赤ちゃんふれあい体験事業について、乳幼児健診時の実施から中学校訪問時に実施することに事業内容を変更したことで、実績値が目標値を大きく上回ったことは評価できる。しかし、実績値と目標値が大きく乖離しているため、新たに施策の目標値を再考すべき。 また、ボランティア活動への参加状況については、質問事項が廃止になったとの理由で自己評価しないのは適当でない。別な方法で評価すべきで、今後検討してもらいたい。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	赤ちゃんふれあい体験事業では、今バーチャル的な世界が広がる中、赤ちゃんと直接触れ合いぬくもりを感じれることは、人間の根本に関わることで、心の耕しに非常に大事であることから、今後も多くの子どもたちが参加できる機会を作ってもらいたい。 この命を大切にすることの教育を充実させるには、教職員が研修をし、教職員の資質能力を高める必要がある。ただ研修を受けるだけでなく、学んだことを実践することが重要である。また研修後のフォロー、研修成果の検証することも大事である。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名	指導室 学校給食課
------	--------------

No.2	施策名	健やかな体の育成							教育振興 計画の 位置づけ	1-2
施策の概要	目的	学校体育の充実に努め、バランスの良い学校給食の提供や食育指導を実施し、児童生徒の健やかな体を育成するとともに、学校保健と健康教育の充実により、心身の健康の保持増進を図ります。								
	取組内容	年間を通して児童生徒が適切に運動ができるよう、学習内容を工夫・明確化した年間指導計画の作成する。 体力テストの結果の活用と学校の特色を生かした体力づくりの実践を行う。 地域の人材と学校が連携・協働した運動部活動の指導体制を充実させる。 学校給食の献立や食物アレルギー、学校給食の衛生等について研究等を行い、給食時の食に関する指導を行う。 歯と口の健康教育や飲酒・喫煙・薬物乱用防止教育、がん教育を行う。 【重点事業】 ・地場産品活用の推進								
	達成すべき目標	①各測定項目から体力や運動能力を5段階で評価し、段階別総合評価がA+Bの児童生徒の割合の増を目指す。 ②学校給食を生きた教材ととらえ、食に関する理解、関心を高めるため、地場産品の割合の増を目指す。 ③各公立幼稚園、小・中学校において歯と口の健康のために実施する事業項目の増を目指す。								
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		体力テストの結果を活用し、課題がある項目について運動の日常化を図ったり授業時の活動を工夫したりして、改善に向けて取り組んだ。 部活動においては、部活動指導員配置事業や学校ボランティアを活用し、生徒のニーズへの対応や地域との連携を図った。 学校保健委員会において、栄養教諭や学校医の講話を取り入れるなどし、保護者や教職員も連携して児童生徒の心身の健康の保持に努めた。 地場産品活用の推進として、月1回地産地消の日を実施した。 農政課と連携して、認定農業者より小美玉市産の食材を提供してもらい「給食だより」等で紹介した。また、小美玉市産コシヒカリ、飲むヨーグルト、ヨーグルト、にら、チンゲンサイ、鶏卵は小美玉市産を使用し、その他食材は可能なものは地場産品を活用した。								
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大	事業名				
		10	02	01	04	保健衛生管理費(小学校費)				
		10	03	01	04	保健衛生管理費(中学校費)				
		10	04	01	04	保健衛生管理費(幼稚園費)				
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
	予算額(千円)	3,371	3,433	3,427	3,369	3,330	-	-		
決算額(千円)	3,266	3,404	3,342	3,293	-	-	-			
執行率(%)	96.9%	99.2%	97.5%	97.7%	-	-	-			
施策の目標	①	体力テストにおける段階別総合評価	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
			小学生	59.1%	65.0%	65.0%	59.3%	65.0%	65.0%	65.0%
	中学生	60.1%	65.0%	65.0%	62.2%	65.0%	65.0%	65.0%		
	②	学校給食で使用する地場産品の割合	55%	59%	54%	47%	55.6%	55.8%	56%	
③	歯と口の健康に関する事業の実施状況	2.4項目(各幼・小・中平均)	3項目	3項目	3項目	3項目	3項目	3項目		

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	C	体力テストについては、令和元年度目標値(小学校62.0%, 中学校62.5%)に対し、小学生で2.7%, 中学生で0.3%下回った。地場産品の使用割合についても、天候や食材の流通状況等の影響により目標値を下回った。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	歯と口の健康や食育、がん教育など、専門家を活用した健康教育を、児童生徒の発達段階に応じて行い、理解を深めた。配布資料を通じて、地場産品の紹介をした。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	B	方法については改善の必要はないが、新しい生活様式を踏まえた健康教育が必要である。 地場産品を積極的に活用していく必要がある。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	令和2年度は体力テストは中止となった。新型コロナウイルス感染症による臨時休業日が続いたことから、児童生徒の運動不足や体力の低下、栄養面の偏り等が心配される。適切な運動や食事についての理解や実践力を高める必要がある。 毎年同時期に学校給食で使用する地場産品の調査を実施しているが、年度や発注量により地場産物の確保が難しい場合がある。今後は、多くの地場産品が取り入れられるよう業者と情報共有しながら献立作成や食材選定を行う必要がある。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	①体力テストにおける段階別総合評価については、令和元年度目標値を小学校・中学校ともに下回った。 ②学校給食で使用する地場産品の割合については、献立作成や食材選定の工夫を継続して行い目標値に近づけていきたい。 ③歯と口の健康に関する事業の実施状況については、学校保健委員会参加者による共通理解や、歯磨き指導等が各学校で実施されている。また、その他健康に関する専門家の講義などが実施されている。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	体力テストの結果のみで自己評価を行うのではなく、結果を踏まえてどのように各学校で活かしているか、どのように改善したかを評価してほしい。 学校給食での地場産品の割合では、目標値を下回っているが、天候や流通業者の影響もある中、積極的に米やヨーグルトなど地場産品を使用しようと努めていることは評価できる。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	コロナ禍で運動していない児童生徒が増え、体力が落ちているのではないかとと思われるが、体力づくりを各学校で実施することは、将来的にスポーツの技能や体力を高めるために必要である。それを評価することはなかなか数字では見えづらいし、表しにくいと思われる。 児童生徒たちが様々な活動や取り組み内容を見た時に、自分自身で調べ、考え、まとめるような取り組みを検討してほしい。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名	指導室
教育振興計画の位置づけ	1-3

No.3	施策名	社会を生き抜く力の育成				教育振興計画の位置づけ	1-3		
施策の概要	目的	児童生徒の自主性・自立性を育成する教育や、人や自然との関わりを深める体験活動、夢や想像力を育む読書活動を推進し、社会を生き抜く力を育成します。また、自らの身の安全を守るための危機管理能力の育成に努めます。							
	取組内容	総合的学習の時間で社会奉仕体験や自然体験を行ったり、小学校5年生を対象に県外2泊3日の宿泊学習を実施する。 国の「学校図書館図書整備等5か年計画」をもとに、「読む・調べる」に対応できる学校司書の配置を積極的に進める。また、読書推進活動により児童生徒一人一人の読書活動の質的、量的な充実を図る。 家庭や地域と連携した交通安全教室の実施や学校安全マップの作成など、学校安全教育の充実を図る。 【重点事業】 ・自然教室 ・学校司書配置事業							
	達成すべき目標	①自然教室後のアンケートにおいて、「自然教室を通して自立心を養う」という項目に対し、「十分達成できた」「ほぼ達成できた」と回答した学校の割合の維持を目指す。 ②学校司書が配置されている学校の割合の増を目指す。 ③家庭との引き渡し訓練や警察、消防署等と連携した防災訓練を実施した学校の割合の維持を目指す。							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		①小学5年生を対象に、国立赤城青少年交流の家で2泊3日の宿泊学習を実施し、規律ある集団生活を通して、人間的なふれあいを深め、信頼関係の確立を図ることができた。また、登山、オリエンテーリング等を実施し、人や自然とのふれあいを通し、児童一人一人に豊かな心を育成することができた。 ②授業と読書活動との関連を図り、学校図書館を積極的に活用できた。 ③各校、年に3回の避難訓練(地震・火災・不審者)を、消防署や警察署と連携しながら実施した。引き渡し訓練に関しては、ほとんどの学校で実施しており地区によっては小中合同で実施した。引き渡しカードに関しては全校で校内に保管している。							
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大事業	事業名			
		10	02	02	01	教育活動振興経費			
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額(千円)	5,564	5,633	5,685	3,218	5,579	-	-	
	決算額(千円)	5,006	3,857	4,221	3,048	-	-	-	
執行率(%)	90.0%	68.5%	74.2%	94.7%	-	-	-		
施策の目標	指標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
	①	自然教室のアンケート結果	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	②	学校司書の配置状況	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	83.3%	100%
	③	家庭や地域と連携した防災訓練の実施率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	B	自然教室のアンケート結果と家庭や地域と連携した防災訓練の実施率に関しては100%だった。また、学校司書に関しては人件費の確保が困難であったことから未配備となった。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	人や自然との関わりを深める体験活動、夢や想像力を育む読書活動を推進し、社会を生き抜く力を育成することができた。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	C	本の管理や学習の手助け等の観点から学校司書の配置が必要である。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	①自然教室を実施することにより、自立心や自主性、信頼関係を養うことができた。 ②本の管理や調べ学習の手助け、先生が授業で使う資料の準備、読み聞かせなど、学校司書に担ってほしい役割は大きい。 ③避難訓練に関しては全校で年に3回実施できているので今後も継続していきたい。引き渡し訓練に関しては、全校で実施できるようにしていきたい。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	①自然教室のアンケート結果については、「自立心を養う」という項目に対し、「十分達成できた」と回答した学校が90%を超えた。 ②学校司書の配置状況については、予算の確保ができず、配置することができていない。 ③家庭や地域と連携した防災訓練の実施率については、各校で実施することができた。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	自然教室は、8月の暑い時期に県外で実施しており、児童の健康面を考慮すると県内の宿泊施設で宿泊数を減らして行うことの検討も必要と思われる。 学校司書について、早期配置は必要だが、学校図書についても充実を図っていく必要がある。まずは古い図書を新しい図書に入れ替えたり、必要な図書を整備していかないといけない。 学校司書は人数だけ揃えればよいのではなく、資質能力が備わっていることが求められる。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	安全マップは、各学校区ごとで作成しているということであるが、見方がわからない方がいると思われる。全国の自治体で防災マップが配布されているが読めないという問題が生じていることで、安全マップの内容を理解するためには、実際に自分たちで地元を歩いてみる必要がある。 学校安全マップにおいても作成・配布するだけでなく、学校現場で一歩進んで、現地確認による微妙な地形の差を確認するなど、場所ごとの問題点を共有し、声がけしながら危機管理能力の育成に努めてもらいたい。 自然体験学習では、子どもへの体力的な負荷が大きいことや、安全管理に疑問視する声を聞くが、子どもにとっては非常に学べることが多いので、継続して事業を続けてほしい。また、普段の生活の中でも、社会を生き抜く力を育成できるような方策も検討してほしい。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名	指導室 子ども課
------	-------------

No.4	施策名	就学前教育の充実				教育振興 計画の 位置づけ	1-4		
施策の概要	目的	公立や私立の幼稚園、認定こども園、保育園との交流・連携を深め、幼児教育の充実を図ります。 また、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、保幼小の連携を推進します。							
	取組内容	園内での保育・学習活動のほか、園外活動による自然散策や社会科見学等を積極的に取り入れ、地域の豊かな自然環境下での体験活動や、地域住民等との交流活動を行う。 幼稚園への訪問指導により、教育課程実施状況を把握し、園の課題解決に向けた研修を行う。 保幼小接続を意識したプログラム作成、小学校低学年児童等との交流活動・幼児期教育接続推進のための研修・小学校の授業参観を実施する。 保護者の就労等により留守となる家庭の園児について、預かり保育を行う。 【重点事業】 ・自然や人との関わりを重視した活動の充実 ・預かり保育事業 ・接続を意識したプログラム作成、小学校低学年児童等との交流活動・幼児期教育接続推進のための研修会の実施 ・幼児教育接続推進							
	達成すべき目標	①公立幼稚園のうち、集団遊びの年間計画の作成、見直しを行っている園の割合の維持を目指す。 ②保幼小の連携から接続へのステップアップを目指す。(ステップ2:交流がある ステップ3:接続を見通した教育課程の編成・実施)							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		・各小学校の保幼小接続コーディネーターが幼稚園を訪問し、保育参観を行うとともに、各校・園が作成しているアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムについて、意見交換を行う。 ・指導室から幼稚園への訪問指導により、教育課程実施状況を把握したり、保幼小接続に関する課題解決に向けた研修を行ったりする。 ・長期休業中を活用して、公立・私立幼稚園、保育所及び小学校教諭が一同に会し、研修を行う機会を設ける。							
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大事業	事業名			
		10	01	03	01	教育指導研究経費			
		10	04	01	02	幼稚園運営経費			
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額(千円)	85,794	70,561	60,944	81,543	36,694	-	-	
決算額(千円)	82,208	65,101	58,950	78,914	-	-	-		
執行率(%)	95.8%	92.3%	96.7%	96.8%	-	-	-		
施策の目標	指標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
	①	集団遊びの年間計画の作成率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	②	保幼小のステップ値	ステップ2	ステップ2	ステップ2	ステップ2	ステップ2	ステップ3	ステップ3
	③								

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	B	公立幼稚園のうち、集団遊びの年間計画の作成、見直しを行っている園の割合(100%)を維持できている。
	A 目標値以上 C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	公立や私立の幼稚園、認定こども園、保育園と小学校との連携・交流を深め、幼児教育の充実を図ることができた。
	A 大いに充実 C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	B	幼児教育コーディネーターや保幼小接続コーディネーターを中心に、保幼小の連携・接続の方法について、教職員等が意識を高めている。
	A 必要なし C 必要あり B 当面必要なし D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	小学校への円滑な接続ができるよう各幼稚園・保育所等で保幼小連携に係る取り組みを推進するとともに、アプローチ・スタートカリキュラムの活用に努める。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	①集団遊びの年間計画の作成率については、すべての園で年間計画を作成することができたので、100%である。 ②保幼小のステップ値については、園児が園外活動の一環として小学校を訪問するほか、訪問校の低学年生と遊ぶなど、小学生との異年齢交流や保幼小接続に向けた取り組みの推進など、就学前教育により一層の充実を図るため、積極的な連携を図った。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	小学生との異年齢交流や保幼小接続に向けた取り組みの推進を実施していることで、幼稚園児が運動会の司会進行や準備係を担当できるようになってきていることなどを踏まえると、一定の成果があったと評価できる。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	集団遊びが難しい子どもは、みんなと同じにできなくても、それぞれ発育状況に差があるので、数値目標を重視しすぎないほうがよい。人と人との繋がりのおかげの一番のものになる集団遊びは非常に大事である。 なかなか集団の中に溶け込めない子どもたちを、一体どういふふうに集団に加えていくか、非常に難しい問題である。その目的を達成するための方法などを幼稚園の教員と一緒に、検討して欲しい。	

令和元年度事業評価点検シート

担当課名	指導室 子ども課 生涯学習課
教育振興 計画の 位置づけ	1-5

No.5	施策名	次代を担う青少年の健全育成
施策の概要	目的	子供たちが地域で安全かつ安心に過ごせるよう、学校、家庭、地域や関係団体が連携し、次代を担う青少年の健全育成に取り組みます。 また、乳幼児期から小・中学校期まで切れ目のない家庭教育支援に取り組み、家庭の教育力の向上を図ります。
	取組内容	市子ども会育成連合会及び青少年育成会等の団体活動の支援を行う。子供たちの成長を祝う七つの祝い式典や成人式典を開催する。地域社会の一員としての自覚を促すため、地域の美化活動、ジュニアリーダー研修などを実施する。携帯電話等の安全な使用について、家庭での話し合いやルールづくりを推進し規範意識の醸成と基本的生活習慣の定着を図る。 【重点事業】 ・学校教育活動や地域の学習・体験学習等への支援 ・七つの祝い式典の開催 ・子ども議会を実施 ・市内及び特別巡回パトロールの実施 ・規範意識の醸成と基本的生活習慣の定着 ・家庭教育学級の実施
	達成すべき目標	①「青少年の健全育成に協力する店」への登録を促進し、登録件数の増を目指す。 ②子供たちが、市政をより身近に感じ関心を高めるため、議会活動の一部を体験する子ども議会開催回数の維持を目指す。 ③市内巡回パトロールや、イベント時の特別巡回パトロール実施回数の26回以上行う。 ④家庭教育学級を実施する市内の保育園、幼稚園、小学校を96.8%以上とする。

令和元年度事業内容及び工夫改善事項	学校と家庭がともに教育について理解を深め合い、学校教育の充実や地域における教育環境の充実を図るため、「市PTA連絡協議会」の活動を支援した。 子どもたちが祭りや遊びなど様々な体験を通して、異年齢のなかでの人とのつきあい方や社会のルールなどを身につけるため、「市子ども会育成連合会」の活動を支援した。 青少年の健全な育成における様々な情報を共有し、パトロールや研修等を行う「青少年を育てる小美玉市民の会」や「市青少年相談員連絡協議会」の活動を支援した。 未来を担う子どもたちの健やかな成長を願い、七歳の節目を祝う式典を開催し、ランドセル贈呈と親子で参加できるバラエティショー（芸術鑑賞）を実施した。 新成人となる市民の新しい門出を祝福するため、市内居住の成人者及び市内中学校を卒業した成人者を祝う式典を開催した。
-------------------	---

施策の経費	予算事業名	款	項	目	大事業	事業名		
		10	01	04	01	放課後児童対策事業		
		10	05	01	03	社会教育活動総合事業		
		10	05	01	04	青少年対策経費		
		10	05	01	05	成人式典事業費		
	10	05	01	06	新入学児童用ランドセル購入事業			
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
予算額 (千円)	123,428	123,160	123,196	152,175	171,902	-	-	
決算額 (千円)	117,509	119,687	120,226	147,554	-	-	-	
執行率 (%)	95.2%	97.2%	97.6%	97.0%	-	-	-	

施策の目標	指標	年度	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 目標値	令和3年度 目標値	令和4年度 目標値
		① 「青少年健全育成に協力する店」の登録件数	25件	26件	27件	26件	28件	29件	30件
	② 子ども議会の実施数	1回	1回	1回	1回	1回	1回	1回	
	③ 市内及び特別巡回パトロールの実施回数	24回	24回	25回	22回	25回	26回	26回	
	④ 家庭教育学級の実施率	93.5%	93.5%	93.3%	93.1%	95.7%	96.3%	96.8%	

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	C	「青少年健全育成に協力する店」の登録件数は令和元年度目標値(27件)を下回った。パトロールの実施回数も令和元年度目標値(25回)を下回った。家庭教育学級の実施率も令和元年度目標値(95.2%)を下回った。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	子ども議会について、まちづくりに子どもの視点を取り入れ、子どもがまちづくりに参加する機会になっている。子ども達には、議会を体験する貴重な機会となっている。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	C	防犯・非行防止効果を高めるために、青少年相談員がパトロールを行っていることを周知する必要がある。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	青少年健全育成団体等の各活動がより有意義なものとなるよう、各団体等メンバーでの連絡体制を強化し共通理解を得たりするなど、子どもたちが安全に過ごせる環境を整える取組の促進が必要である。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	C	①「青少年の健全育成に協力する店」の登録件数については、令和元年度で1店舗廃業したことで、令和元年度目標値を下回った。今後も登録に向けた周知を図っていく。 ②子ども議会の実施数については、目標値である1回を達成している。 ③市内及び特別巡回パトロールの実施回数については、台風や新型コロナウイルス感染症拡大により2回実施できなかったことが影響し、令和元年度目標値を下回った。令和4年度に達成できるように青少年相談員と調整していく。 ④家庭教育学級の実施率については、私立の保育園・幼稚園で未実施のため、令和元年度目標値を下回った。今後も実施していない私立の保育園・幼稚園に対して参加を呼び掛けていく。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	C	私立保育園や幼稚園では、園独自に家庭教育学級と同様の事業を実施しており、市事業に参加する必要がないことで実施率が上がらないということであれば、園独自事業も実施率に見込んでよいと思われる。 なお、私立保育園・幼稚園も市事業に参加させるのであれば、必要な支援策を講じる必要がある。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B	施策の目標値に達していないが、着実に事業を実施していることで大きな問題やトラブルが起きていないことから、それなりの成果が表れているのではないのかと考えられる。 青少年の健全育成に協力する店を増やすことは、非常に大変だと思われるが、これからも引き続き尽力してもらいたい。 目標値を達成できなかった理由が、新型コロナウイルス感染症の影響であったことから、それを除けば事業評価は一定の成果があったと判断される。	
	A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い		

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名	指導室
教育振興計画の位置づけ	2-1

No.6	施策名	確かな学力の定着							
施策の概要	目的	児童生徒一人一人に応じた学習指導に努め、言語活動の充実を図るとともに、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」の育成や「学習意欲」の醸成により、確かな学力の定着を図ります。							
	取組内容	<p>全国学力・学習状況調査や茨城県学力診断テストにより学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。また、チーム・ティーチングや習熟度別指導により基礎的な知識・技能の確実な習得に取り組む。児童生徒の思考力・判断力・表現力等を育成するため、国語をはじめ各教科等で記録、説明、批評、論述、討論などの学習に取り組む。</p> <p>【重点事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査 ・茨城県学力診断のためのテスト ・学校訪問指導 							
	達成すべき目標	<p>①学力診断のためのテストの平均正答率を小学6年生(4教科)で73%以上、中学3年生(5教科)で63%以上とする。</p> <p>②言語活動の充実に向けた取組状況を小中学校で100%とする。</p>							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		<p>全国学力・学習状況調査の結果を受け、市の学力対策委員会を開催した。児童生徒の学習状況の把握・分析をするとともに、授業改善を図った。</p> <p>県学力診断のためのテストは、実施後に各学校で児童生徒の学習状況の把握・分析を行った。補充学習や1年間の学習内容のまとめについては、3月の全国一斉臨時休業のため、時間の確保が難しい面があった。</p> <p>言語活動の充実については、学び合いを取り入れ、学習形態の工夫やグループでの話し合いを継続して行っている。</p>							
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大事業	事業名			
		10	01	03	01	教育指導研究経費			
		10	01	03	03	学校支援対策事業			
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額(千円)	21,397	21,700	26,982	32,099	12,295	-	-	
決算額(千円)	20,365	20,038	22,962	29,853	-	-	-		
執行率(%)	95.2%	92.3%	85.1%	93.0%	-	-	-		
施策の目標	指標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
		① 学力診断のためのテストの平均正答率	4教科(小6) 71.1% 5教科(中3) 60.4%	4教科(小6) 73.0% 5教科(中3) 63.0%	4教科(小6) 73.0% 5教科(中3) 63.0%	4教科(小6) 66.9% 5教科(中3) 57.9%	4教科(小6) 72.3% 5教科(中3) 62.1%	4教科(小6) 72.7% 5教科(中3) 62.6%	4教科(小6) 73.0% 5教科(中3) 63.0%
	② 言語活動の充実に向けた取組状況	小学生 91.6% 中学生 100%	小学生 100% 中学生 100%	小学生 100% 中学生 100%	小学生 87.5% 中学生 100%	小学生 97.2% 中学生 100%	小学生 98.6% 中学生 100%	小学生 100% 中学生 100%	
	③								

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	C	学力診断のためのテストでは、令和元年度目標値(小6:72.0%, 中3:61.7%)に対し、小6で5.1%, 中3で3.8%下回った。また、県平均より小6で14.8%, 中3で8.3%下回った。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	学力向上対策委員会を開催し、授業改善のための資料を作成した。作成した資料は各学校に配付し、活用できるようにした。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	B	ティーム・ティーチングや習熟度別指導の機能を生かすことで言語活動をより充実させ、確かな学力の定着を目指す必要がある。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	令和2年度は全国学力・学習状況調査及び学力診断のためのテストが中止になった。また、臨時休業期間があったため、例年より時数が限られている。その中で、適切に児童生徒の学習状況を把握し、学力を定着させる工夫が必要となる。言語活動の充実については、グループ学習が行いにくくなることが考えられるため、ICT機器の活用や、記録や論述といった活動の充実を図る必要がある。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	C A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	①学力診断のためのテストの平均正答率については、小学校・中学校ともに目標値を下回っている。今後は、新学習指導要領で求められている力を十分に踏まえ授業改善を図るよう、各学校と調整していく。 ②言語活動の充実に向けた取組状況については、中学校では目標値を達成しているが、小学校では下回っている。ICT機器の活用や、各教科でどのような言語活動が有効であるかを検討し、授業に取り入れていく。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	C A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	学力診断のためのテストの平均正答率について、平均正答率だけを重視するのではなく、改善が見込まれる領域に絞って重点的な取り組みを行うべきである。 また学力向上委員会で分析した結果を各学校でよく分析し改善策を講じる必要がある。 言語活動充実についても、目標値を達成するだけではなく、中身が伴うような取り組みが必要と思われる。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	C A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	子どもたちの意欲をどうすれば上げられるかを考えたときに、子どもたちのやる気を、各学校がどのようにとらえているかをもちと検討してもらいたい。 成績だけを上げるのであれば、例えば算数なら計算練習、国語であれば漢字練習だけに特化して訓練することで、ある程度点数を上げることは可能と思われる。 しかし、果たしてそれが意欲的なものに繋がるのか。やはり子どもたちの学習意欲がわくような教育に取り組んでほしい。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名	指導室
教育振興計画の位置づけ	2-2

No.7	施策名	新たなニーズに対応した教育の推進							
施策の概要	目的	国際教育や環境教育等の充実を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業の改善に努め、これからの時代に求められる資質・能力を児童生徒が身につけられるよう取り組みます。							
	取組内容	<p>総合的な学習の時間や生活科や理科等において、霞ヶ浦等の自然を体験する学習を推進する。</p> <p>小・中学校等にALTを配置し、指導担当教員とのティーム・ティーチングを効果的に行うことにより、小学校外国語活動や小・中学校英語教育の充実を図る。</p> <p>小学4・5年生、中学1・2年生を対象として、夏休みに県作成の学習教材を用いて学習する場を提供する。</p> <p>【重点事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問指導、全国学力・学習状況調査 ・学びの広場サポート事業(小・中学校算数) 							
	達成すべき目標	<p>①校内研修の実施回数を100%とする。</p> <p>②質問紙調査の割合を小中学生で35%以上とする。</p>							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		<p>①校内研修については目標を達成している。また、授業研究以外にも児童生徒理解や健康安全、情報化など、年間を通して計画的に研修を行っている。</p> <p>②は令和元年度の全国学力・学習状況調査から質問事項が廃止された。</p>							
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大事業	事業名			
		10	01	03	02	語学指導経費			
		10	01	03	06	学びの広場サポートプラン事業			
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額(千円)	26,371	26,194	28,952	30,474	40,035	-	-	
	決算額(千円)	26,188	26,184	28,952	30,257	-	-	-	
執行率(%)	99.3%	100.0%	100.0%	99.3%	-	-	-		
施策の目標	指標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
	①	校内研修の実施回数	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	②	質問紙調査の割合	小学生 28.7%	小学生 29.1%	小学生 28.7%	質問事項 廃止	小学生 32.9%	小学生 34.0%	小学生 35.0%
			中学生 27.7%	中学生 28.1%	中学生 30.7%		中学生 32.6%	中学生 33.8%	中学生 35.0%
③									

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	B	各学校で研修の年間計画に則り、年3回以上実施しており、目標値を達成している。
	A 目標値以上 C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	学校訪問指導において、学校の取組に応じた研究協議や指導助言を行った。
	A 大いに充実 C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	B	今後も、校内研修の実施回数維持を目指す。
	A 必要なし C 必要あり B 当面必要なし D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	①校内研修については、国際教育や環境教育、特色ある教育といった視点からも取り組み、より充実した内容にしていく。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	①校内研修の実施回数については、目標値(年3回以上)に達成しているため、今後も維持していく。 ②質問紙調査の割合については、令和元年度の全国学力・学習状況調査から質問事項が廃止された。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	施策の目標値は、数値的なものになっているため、事業計画の見直しの際は、質的なものを入れるような検討をしてほしい。 ホームルームティーチャーがALTに頼りすぎている面がある。ホームルームティーチャーの指導力を高めていく必要がある。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	新たなニーズに対応した取り組みに学校の先生方は、非常に苦労されていると思われる。 主体的対話的に深い学びをするためには、学習指導要領を見ても、表面的にとらえるのではなく、本質をとらえて、校内研修に当たるようにしてほしい。子どもたち同士の対話となると、おしゃべりになってしまうので、そうならないよう、教材の本質と向き合えるよう教育してほしい。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名	指導室
------	-----

No.8	施策名	キャリア教育の充実						教育振興計画の位置づけ	2-3
施策の概要	目的	学校や地域の特色を生かしながら、各学年に応じたキャリア教育の充実を図り、児童生徒の勤労観や職業観を育成します。							
	取組内容	小・中学校における職場体験活動の充実を図り、児童生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基礎となる能力や態度を育成するため、地域の企業や事業所の職場体験や職場見学の受け入れについての情報を収集し各学校へ提供する。 茨城の将来を担う人材を育成することを目的に行われている「いばらきものづくり教育フェア」の児童生徒作品コンクールへ応募をする。 【重点事業】 ・職場見学・職場体験の実施							
	達成すべき目標	①職場体験の実施率を100%にする。また、「いばらきものづくり教育フェア」への参加率を100%にする。							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		職場見学を中学1年生で実施し、職場体験を中学2年生で実施した。職場見学に関しては、保護者の勤務先等に協力を依頼し、職場体験に関しては、地域の企業や事業所に協力を依頼した。 「いばらきものづくり教育フェア」の児童生徒作品コンクールへ参加した。また、木工チャレンジコンテストや豊かな生活を作るアイデアバックコンテストにも作品の応募を行った。							
施策の経費	予算事業名	款 項 目 大事業				事業名			
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額(千円)								
	決算額(千円)								
	執行率(%)								
指標	年度								
施策の目標	①	職場体験の実施状況	91.0%	97.6%	99.3%	99.4%	97.0%	98.5%	100%
	②								
	③								

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	B	職場体験の実施状況は、令和元年度目標値(95.5%)に対し、3.9%上回った。また職場見学は100%の実施状況であった。「いばらきものづくり教育フェア」の参加率についても100%だった。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	地域の企業や事業所の職場体験の受け入れについての情報を収集し各学校へ提供した。また、キャリア教育研修会を実施し、職場見学や職場体験の情報交換を行った。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	B	中学2年生で実施している職場体験においては、受け入れ先の企業や事業所が減少している。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	職場見学に関しては、夏季休業中に1日設定し、実施することができた。現在の実施方法で今後も継続していきたい。職場体験に関しては、夏季休業中に3日以上で設定した。受け入れ先の企業や事業所の確保が今後の課題である。 「いばらきものづくり教育フェア」に関しては、中学校の技術家庭科の授業で取り組んだ。今後も、技術家庭科の授業で取り組んでいきたい。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	職場体験の実施状況については、3日以上実施できなかった生徒が若干名いたが、概ね実施することができ望ましい勤労観や職業観を育成することができた。 「いばらきものづくり教育フェア」の児童生徒作品コンクールへ中学1・2年生が参加した。参加率は100%であった。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	職場体験に協力する事業所が減っていることから、企業連絡会などに働きかけをし定期的な会合を設けるなどして、協力依頼をすることを検討してほしい。 また各学校の負担軽減のため、次年度以降も協力してくれる事業所のデータベース化をすることも検討してほしい。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	学校で職場体験に協力する事業所を探すことは限界があることから、市が一括して職場体験に協力する事業所を探すようにすることは評価できる。 今後は、子どもたちが職場体験をし得られる内容を整理し、希望する職場をわかりやすく区分してはどうか。 職場体験に協力してくれる事業者に感謝したい。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名

学校教育課

No.9	施策名	情報活用能力を育てる教育の充実				教育振興計画の位置づけ	2-4		
施策の概要	目的	社会の変化に対応したICT環境の計画的な整備と、ICTを活用した協働的、双方向的な授業を展開することで、児童生徒の情報活用能力を育成します。							
	取組内容	<p>各授業においてPCを用いて、資料の提示やデジタル教材の提示等、情報教育を拡大させ、授業の効率化につなげる。</p> <p>また、パソコン機器のほか、電子黒板等の外部機器の更なる有効活用を図ることで、より充実した効果的、効率的な学習活動の推進を図る</p> <p>ICT支援員を活用した指導サポート、小・中学校 教職員の研修会、教科ごとの活用講習会を実施する。</p> <p>【重点事業】</p> <p>・パソコン教室情報教育機器、電子黒板等の外部機器、デジタル教科書等の授業用コンテンツ及び情報教育支援機器の整備・充実</p>							
	達成すべき目標	①ICT機器を活用した授業の時間数を週10時間以上とする。							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		<p>玉里地区小学校3校及び小川美野里地区中学校3校のパソコン教室の情報機器更新作業を行った。</p> <p>また、情報教育においては、優先的に整備すべきICT環境整備について文部科学省より「平成30年度以降の学校におけるICT環境の整備方針」が示されたことで、ノートPCからタブレットPCへの移行も有効的な環境整備と考えた。</p> <p>更に、玉里地区小学校3校においては、令和3年度に玉里学園義務教育学校への統合を予定していたこともあり、パソコン教室にタブレット型PC(キーボード脱着式)を導入し、統合後の活用も考慮し更新を行った。</p>							
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大事業	事業名			
		10	02	01	03	小学校情報教育関係経費			
		10	03	01	03	中学校情報教育関係経費			
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額(千円)	50,965	63,441	55,135	54,378	56,696	-	-	
	決算額(千円)	50,845	62,966	54,573	53,974	-	-	-	
執行率(%)	99.8%	99.3%	99.0%	99.3%	-	-	-		
施策の目標	指標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
	①	ICT機器を活用した授業の時間数	3時間/週	4.6時間/週	5.38時間/週	6.56時間/週	7.7時間/週	8.8時間/週	10時間/週
	②								
	③								

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	B	ICT機器を活用した授業時間数は令和元年度目標値(6.50時間/週)に対し、わずかに上回った。今後の全国的なICT化の動向を考慮すると、目標値以上の数値を達成したい。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	一部の学校の情報機器更新において、常設型の機器から、可搬型の機器へ変更を行ったため、普通教室での情報教育が可能となった。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	A	文部科学省の提示するGIGAスクール構想の実現に向け、全国で情報端末の整備が必須とされているため、当初予定よりも早期段階で施策が実現されるため。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	情報教育が活発となる中、学習活動のなかでICT機器を有効に活用することで、児童生徒が将来における情報化社会のなかでも主体的に適応できるよう、情報活用能力の育成を図る。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	ICT機器を活用した授業の時間数については、文部科学省の提示するGIGAスクール構想の実現にあたり、児童生徒1人1台端末の整備が予定されている。 この整備により、普通教室において常にタブレットPCが使用可能な環境となり、ICT機器の活用機会が急増することから、令和4年度までに目標値を達成できる見込みである。充実したICT環境に対応した教員の養成等を実施し、より効果的で効率的な学習活動の推進を図っていく。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	施策目標値だけにとらわれず、教科や題材などに応じICT機器の活用してほしい。 新たな検定級を独自に設け、達成度に応じ賞状を学校長から児童生徒に授与されるなど、児童のICT機器の活用した学習意欲を向上させる方策が必要と思われる。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	ICT機器のコピー＆ペースト機能を活用し、ネットからの情報を転写することで、どんな問題でも簡単に解けると勘違いしてしまう恐れがある。やはり情報から子どもたちが、しっかりと考えて、きちんとした判断ができるよう指導することが大事である。 また携帯電話を所持する子どもたちには、SNSによるトラブルが起きるリスクがあるため、そちらも十分配慮してほしい。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名	学校教育課 指導室
教育振興 計画の 位置づけ	2-5

No.10	施策名	インクルーシブ教育の充実				教育振興 計画の 位置づけ	2-5		
施策の概要	目的	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図るとともに、子供たちが「わかる・できる」授業を目指すことで、障がいのある人とない人がともに学ぶインクルーシブ教育の充実を図ります。							
	取組内容	<p>障がいのある園児及び児童生徒が健常者と変わらない園・学校生活が送れるよう、個別の教育支援計画を策定し、一人一人の障がいの状態や教育的ニーズに応じて生活介助員を配置する。また、生活介助員の資質向上のために研修を積極的に行う。</p> <p>スクールソーシャルワーカーを配置し発達障害や不登校等が懸念される幼児、児童生徒に対して学校と保護者、医療機関等の専門機関との連絡調整を図りながら、適切な支援を行う。</p> <p>ユニバーサルデザインの研修を行い全職員の指導力向上を図る。また、小中各学校の特別支援コーディネーターを中心にユニバーサルデザインを意識した授業に取り組む。</p> <p>【重点事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活介助員の配置 ・特別支援教育に関わる教職員の研修等の実施 							
	達成すべき目標	<p>①公立幼・小・中における障がいのある幼児、児童生徒に対する個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成率を100%にする。</p> <p>②「授業内容が分かる」と答える児童・生徒の割合を小学生で85%以上、中学生で73%以上とする。</p>							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		<p>①特別支援学級に在籍している児童生徒及び発達障がいのある児童生徒においては、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を各校で作成し、教育委員会で確認を行った。</p> <p>②各校で計画的に研修に取り組み、授業の改善を行った。</p>							
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大	事業名			
		10	01	03	07	学校教育支援事業			
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額 (千円)	5,503	6,395	7,631	8,516	561	-	-	
	決算額 (千円)	5,228	6,181	6,573	6,930	-	-	-	
執行率 (%)	95.0%	96.7%	86.1%	81.4%	-	-	-		
施策の目標	指標	年度	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 目標値	令和3年度 目標値	令和4年度 目標値
	①	障がいのある幼児、児童生徒に対する個別指導・支援計画作成率	72.7%	100%	100%	100%	90.9%	95.5%	100%
	②	「授業内容が分かる」と答えた児童・生徒の割合	小学生 82.9% 中学生 71.6%	小学生 82.1% 中学生 71.9%	小学生 83.2% 中学生 72.1%	小学生 84.1% 中学生 73.2%	小学生 84.3% 中学生 72.5%	小学生 84.7% 中学生 72.8%	小学生 85.0% 中学生 73.0%
	③								

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	B	障がいのある幼児、児童生徒に対する個別の指導・支援計画作成率で、令和4年度目標値を達成している。「授業内容が分かる」と答えた児童・生徒の割合も、令和元年度目標値(小学校84.0%、中学校73.0%)を上回った。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成したり、生活介助員を適切に配置したことによって、個に応じた指導の充実をはかることができた。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	B	生活介助員に関しては、各校の正確な実態把握を日頃より行う必要性がある。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	障がいのある幼児、児童生徒に対する個別の指導計画及び個別の教育支援計画について、作成率の100%を継続しつつ、発達障害の疑いがある幼児、児童生徒においても必要に応じて作成するようにしていきたい。また、生活介助員に関して、各校の実態把握を行い、支援が必要な幼児、児童生徒に適切に配置できるようにする。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	①障がいのある幼児、児童生徒に対するの個別指導・支援計画作成率については100%である。今後も、継続できるようにしていきたい。 ②「授業内容が分かる」と答えた児童・生徒の割合については、前年度から増加し、小学生で84.1%、中学生で73.2%となり令和元年度の目標値(小学生84.0%、中学生72.3%)を超えた。今後も、計画的に研修に取り組み授業改善を行い、個に応じた適切な指導が行えるようにしていきたい。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	障がいのある幼児、児童生徒やその保護者が安心できるよう、中学校卒業後の受け皿を作ってあげないといけない。専門機関とつながった計画を作成できれば将来への不安がなくなる。 また、個別支援計画を策定するだけでなく、引継ぎが重要である。中学校から高校へ個別支援計画を引き継ぐにあたり、不利益を受けるのではないかと心配する保護者もいることから、どのような形で引継ぐか検討する必要がある。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	学校生活で支援が必要な子どもたちを、どのように指導していくか、非常に難しいと思う。児童生徒の得意なことを把握し、学級の中での役割を位置付け、やる気を引き出すよう努めてもらいたい。 また、生活介助員としてふさわしい方を採用し、適切な配置をしてほしい。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名	指導室 学校教育課 施設整備課
------	-----------------------

No.11	施策名	小中一貫教育の推進と学校の適正規模・適正配置				教育振興 計画の 位置づけ	3-1		
施策の概要	目的	児童生徒のより良い学習環境を目指し、学校の適正規模・適正配置を進めるとともに、義務教育9年間を連続した教育課程としてとらえ、地域の実態に合わせた小中一貫教育の構築を目指します。							
	取組内容	各地域や中学校区の特徴、施設設備の条件を踏まえて、一体型、隣接型、連携型の3つの形態で小中一貫教育に取り組む。 学校再編により遠距離通学となる児童には、スクールバスを運行し、通学の負担軽減と安全を確保する。 【重点事業】 ・学校再編後のスクールバス運行 ・統合校建設事業							
	達成すべき目標	①地域の実態に合わせた小中一貫教育の構築を目指し、小中連携・小小連携に係る事業や研修会を着実に実施する。 ②小中学校規模配置適正化実施計画に基づき、平成31年度に小川小及び橘小学校を、令和3年度に玉里小・玉里北小・玉里東小・玉里中学校を、令和5年度に野田小・上吉影小・下吉影小学校・小川北中学校を統合する。							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		小中連携・小小連携に係る事業や研修会については、計画的に位置付けて実施している。 【玉里学園義務教育学校】 開校準備委員会において、校章、制服・体操服及び通学体制(通学方法・通学支援)を決定し、また、建築工事では、令和元年9月に着工し、年度末の進捗率は21.5%であり、計画どおりに工事は進んでいる。 【小川北義務教育学校】 開校準備委員会において、学校名及び制服・体操服の選定、通学支援のあり方について決定し、また、令和3年度に校舎建築の着工に向けて、実施設計業務を完了した。							
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大事業	事業名			
		10	01	03	01	教育指導研究経費			
		10	02	03	01	小学校建設事業			
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額(千円)	-	-	-	736,928	1,982,075	-	-	
	決算額(千円)	-	-	-	735,464	-	-	-	
執行率(%)	-	-	-	99.8%	-	-	-		
施策の目標	指標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
	①	小中連携・小小連携に係る事業や研修会の実施状況	1中学校区(玉里中学校区)	1中学校区(玉里中学校区)	3中学校区(小川南・小川北・玉里中学校区)	3中学校区(小川南・小川北・玉里中学校区)	3中学校区(小川南・小川北・玉里中学校区)	3中学校区(小川南・小川北・玉里中学校区)	4中学校区(全中学校区)
	②	小学校の適正規模校の割合	41.7%(12校中5校)	41.7%(12校中5校)	45.5%(11校中5校)	45.5%(11校中5校)	45.5%(11校中5校)	66.7%(9校中6校)	66.7%(9校中6校)
	③								

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	B	「小中連携・小小連携に係る事業や研修会の実施状況」、「小学校の適正規模校の割合」いずれの目標値も達成している。
	A 目標値以上 C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	各地区の統合年度を見据えた年度スケジュールについて、予定どおり進捗した。
	A 大いに充実 C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	B	小中で連続性のある生徒指導体制の整備や小中合同での職員研修等を実施した。今後も継続できるようにしていく必要がある。
	A 必要なし C 必要あり B 当面必要なし D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	義務教育学校の開校に向け、より計画的、具体的な協議の推進が課題である。玉里学園義務教育学校の令和3年4月開校にあたり、検討事項は概ね決定したことから、令和2年度1学期に、各校において保護者説明会を行う予定としている。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	A A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	①小中連携・小小連携プロジェクト会議については、生徒指導の体制づくりや合同研修会等を実施することができている。 ②小学校の適正規模校の割合については、開校年度に変更なく、計画どおりに進捗している。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	校舎や体育館などのハード整備はよくできていて成果は見えやすいが、ソフト面では小中学校の連携の在り方が非常に見えづらい。確実な成果があったとA評価はできない。 小川北区・小川南区、美野里地区、玉里地区でそれぞれの特色を出した小中学校の連携の在り方を模索していく必要がある。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	小中学校の規模配置適正化については、小中学校規模配置適正化実施計画に基づき市長部局と市教育委員会で長い時間をかけて、非常に緻密に調整し合い、スムーズに進めてきたことは評価できる。これからもよく話し合いをし、丁寧に進めていただきたい。 また、教育委員会委員が指摘のとおり、ソフト面においてそれぞれ地域で特色がある小中学校の連携の在り方を検討してほしい。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名	指導室 学校教育課
------	--------------

No.12	施策名	教職員の業務の質を高めるための支援やサポート体制の充実				教育振興計画の位置づけ	3-2		
施策の概要	目的	研修の充実により、教職員の資質向上を図るとともに、学校の組織力の強化と教職員のサポート体制の充実を図ります。							
	取組内容	国・茨城県教育センター・県・事務所が行う校外研修や、各学校で行う校内研修を通して、これからの教職員に求められる資質能力を身につけられるよう取り組む。 教職員全員を対象にストレスチェックを実施し、高ストレス者にはカウンセリングや医師面接を行い、職場環境の改善に取り組む。 【重点事業】 ・校内、校外研修 ・校務支援システム操作研修会							
	達成すべき目標	①ライフステージに応じた校内研修や県研修センターが実施する「校内研修支援訪問事業」で行う校内研修に教職員全員が参加する。 ②職場の環境改善のため教職員に対するストレスチェックを年1回実施する。							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		①各学校で学校課題に即した研修課題を設定し、授業研究会をはじめとした校内研修を実施している。県から教員の資質向上に関する指標が示されたことから、ライフステージに応じた研修が受けやすくなっている。 ②教職員295名(対象者296名)にストレスチェックを6月に実施し、7月に結果を本人に通知。高ストレス者にはカウンセリングや医師面接の勧奨を行ったが申し出がなかった。10月には、総括安全衛生委員会や校長会にて各学校の職場環境の改善となるよう検討した。							
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大事業	事業名			
		10	01	02	03	庶務一般事務費			
		10	01	03	03	学校支援対策事業			
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額(千円)	5,184	5,184	3,972	4,307	4,532	-	-	
決算額(千円)	5,184	5,184	3,971	4,298	-	-	-		
執行率(%)	100.0%	100.0%	100.0%	99.8%	-	-	-		
施策の目標	指標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
	①	学校課題に即した校内研修の実施率	75%	100%	100%	93.8%	91.7%	95.8%	100%
	②	教職員に対するストレスチェックの実施回数	未実施	未実施	1回	1回	1回	1回	1回
	③								

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	A	校内研修の実施率は、令和元年度目標値(87.5%)を上回っている。平成29年度から目標値を達成し維持していることで、教職員の質の向上や職場環境の改善がされている。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	校内外研修に全教職員が参加した。ストレスチェックではほとんどの教職員が受検しており、学校ごとの集団分析結果を活用していることで職場環境の改善につながっている。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	B	施策の目標をすでに達成しており、令和4年度まで現状維持させる。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	学校課題に即した校内研修の実施率については、目標値は達成しているものの昨年度の実績を下回っているため、研修テーマの設定の仕方や研修の進め方等について学校と連携し、より充実させていく。 ストレスチェックの受検方法を書面からWeb方式に変更し、事務効率化や経費削減、教職員の受検負担の軽減を図っていく。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	①教員の資質向上の指標に照らし、ライフステージに応じた研修を引き続き行う。また、校内研修のさらに充実を図る。 ②教職員に対するストレスチェックについては、平成30年度から要綱の整備や必要経費の予算計上を行っており、引き続き年1回実施していく。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	校内研修では、与えられる研修から求める研修となるよう、教員が自分自身のライフステージに合わせた具体的な研修計画を作成することを検討してもらいたい。60代の教員は後輩の育成支援に自分のキャリアを活かせるようなものにしてもらいたい。 教職員のストレス軽減となる職場環境の整備などを施策の目標値に設定してほしい。ストレスチェックを年に複数回実施することを検討し、教職員の心理的負担を把握したうえで職場環境の改善に努めてもらいたい。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	ストレスがたまらないよう、校長先生や教頭先生が、先生方へ声掛けや細かい気配りをするのはとても効果的である。見てくれているという安心感を持てれば、ストレスの軽減につながりと思われる。 指導室から学校の管理職に対し、ハラスメントについて十分指導し、全教職員が共通理解のもとで、風通しのよい職場づくりを行っていることは評価できる。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名
施設整備課
学校給食課
学校教育課
指導室

No.13	施策名	安全・安心で、地域とつながる教育施設整備の推進				教育振興計画の位置づけ	3-3		
施策の概要	目的	学校施設の計画的な修繕を図るとともに、安心して学べる教育環境を整備します。また、学校と家庭、地域、関係機関が連携し、交通安全対策や防犯・防災対策を強化することにより、児童生徒の安全の確保に努めます。							
	取組内容	<p>学校施設毎に運営状況や老朽化状況を把握し、それぞれの基本的な方針を定める。</p> <p>現在の給食センターの調理器や設備の点検を行いながら、玉里地区小中一貫校開設に併せ、統合事業を進めていく。</p> <p>「市通学路交通安全プログラム」に基づき、定期的な通学路危険箇所の解消に向けた合同点検を実施する。</p> <p>自然災害等を想定した避難訓練・引渡し訓練の実施を促進する。</p> <p>遠距離通学児童の通学支援を検討し、児童の安全確保と負担軽減を図る。</p> <p>【重点事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長寿命化計画の作成 ・センターの統合事業 ・通学路合同点検、避難訓練・引渡し訓練 							
	達成すべき目標	<p>①老朽化した学校施設の長寿命化計画を策定する。</p> <p>②通学路合同点検の実施を年1回実施する。</p>							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		<p>長寿命化計画に代わる現在策定中の小美玉市公共施設個別施設計画(令和3年3月公表予定)において、統合・集約化への方向性に準拠して、除却や統合により施設利用の見直しを図り、適切な施設の運営を行う。</p> <p>センター統合事業については、小美玉市学校給食運営委員会を8月に実施し、統合計画について協議した。統合に伴う備品の数量把握及び備品購入の予算計上の準備を進めた。</p> <p>通学路合同点検としては、平成30年度から危険箇所対策体制の見直しを行い、令和元年度も継続した対策を行った。</p> <p>また、通学路としての指針及び基準を策定し、通学路を明確化することによる、更なる危険箇所対策の効率化を図るため、「小美玉市通学路交通安全プログラム」の改正を行った。</p> <p>遠距離通学支援においては、小川南小学校開校にともない、統合準備委員会通学部会で遠距離通学となる者を考慮した規程を定めた上でスクールバスの導入を行った。</p> <p>遠距離通学とされる4kmの規程より比較的幅広い許容で規程を定め、本来の遠距離者への支援としては網羅されている。(統合による遠距離通学支援として)</p>							
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大事業	事業名			
		10	02	01	01	小学校運営経費			
		10	02	01	02	小学校施設管理費			
		10	03	01	02	中学校施設管理費			
	10	06	03	04	共同調理場運営経費				
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
予算額(千円)	-	-	-	34,243	63,974	-	-		
決算額(千円)	-	-	-	34,243	-	-	-		
執行率(%)	-	-	-	100.0%	-	-	-		
施策の目標	指標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
		① 学校施設の長寿命化計画の策定率	0%	0%	0%	0%	100%	100%	100%
	② 通学路合同点検の実施回数	1回	1回	3回	15回	1回	1回	1回	

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	D	行政経営課による小美玉市公共施設個別施設計画が令和3年3月公表予定を目標に策定中。 通学路危険箇所の合同点検については、危険箇所の報告数と一致しており、全箇所に対して迅速な対応が取られていると考えられる。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	行政経営課による小美玉市公共施設個別施設計画が令和3年3月公表予定を目標に策定中。 通学路危険箇所の合同点検については、全箇所実施及び1/3か所以上が対策完了しているため。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	A	行政経営課による小美玉市公共施設個別施設計画が令和3年3月公表予定を目標に策定中。 通学路危険箇所の合同点検については、現在考えられる迅速な対応が可能な体制である。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等		<p>小美玉市公共施設個別施設計画が令和3年3月公表予定を目標に策定している。策定中計画の現時点の方向性としては下記の通り示されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃校後の学校は原則「除却」の方向性で検討を進める。 ・美野里地区の小学校は、児童数の動向をみながら他の施設との複合化も検討する。 ・美野里地区の幼稚園は、竹原小学校内へ統合、集約化する。 <p>学校給食センター統廃合について、統合に係る備品購入を適切に進める。また、調理員の確保や配送ルートの見直し等の課題を整理していく。</p> <p>遠距離通学支援の今後の課題としては、玉里義務教育学校の開校に向けた通学支援の検討が必要であり、スクールバス及び路線バスを活用した支援を行う予定である。</p> <p>また、堅倉小学校において、課題とされていた遠距離通学児童の支援について検討をする。</p>	
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	B	①学校施設については、現在策定中の小美玉市公共施設個別施設計画(R3.3公表予定)に準拠して、施設の長寿命化を図る。 ②通学路合同点検の実施回数については、15箇所の危険箇所報告を受け、各担当課にて全箇所の把握を行っており、危険箇所対策方法の簡略化によって、うち6箇所においては、対策が完了している。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B	学校整備に合わせて通学路の整備も着実に実施し、通学路の危険箇所の解消に努めてもらいたい。 市公共施設等の個別施設計画を策定中であることを理由に、成果に対する評価を「D未達成」としてあるが、通学路の歩道整備には時間がかかることや通学路合同点検の見直しを行っていることなどから、一定の成果があったと評価する。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B	校内トイレ環境においては、衛生面を気にする児童生徒がいることや和便器がある施設も多く存在する実情を踏まえ、和・洋式便器のバランスを考え整備にあたっていただきたい。学校生活の中では特にデリケートな部分である。 学校施設や通学路においては、児童生徒の安全確保は、最優先されることであるので、今後も事故がないよう、子どもたちの行動範囲を踏まえ安全確保に努めていただきたい。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名	指導室 学校教育課
------	--------------

No.14	施策名	いじめや不登校等、児童生徒のためのサポート体制の充実				教育振興計画の位置づけ	3-4			
施策の概要	目的	多様で複雑化する児童生徒の不安や悩みに対応する相談体制の充実を図り、いじめや不登校等の問題行動の未然防止と早期対応に努め、サポート体制の充実を図ります。また、家庭の経済状況等の影響を受けることなく、学習機会が確保されるよう努めます。								
	取組内容	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育相談員等、専門家の積極的・効果的な活用を図る。 教育支援センター(適応指導教室)の積極的・効果的な活用を図る。 特別支援学級に入級する児童の保護者や要保護・準要保護世帯に、学校生活に必要な学用品費等の経済的な援助を行う。								
	達成すべき目標	①30日以上欠席する不登校児童生徒数を小学生では全児童数の0.2%以下に、中学生では2.8%以下にする。 ②特別支援学級に入級する児童の保護者や要保護・準要保護世帯に、就学援助に関する制度の周知を3回以上行う。								
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		3名のスクールカウンセラーですべての小中学校のカウンセリング活動を行った。スクールソーシャルワーカーに関しては、市内の保育園、幼稚園、小中学校の様々な相談活動や就学支援等を行った。 教育相談員は、適応指導教室の運営や保幼少連携、就学支援を中心に行った。援助費目に卒業アルバム代等を新設し、他の援助費目についても消費税増税に伴う単価増を行った。 【支給人数と支給額】 要保護:中学生1名 75,585円 準要保護:小学生82名 5,158,570円, 中学生46名 3,988,445円, 小学校就学予定者2名 101,200円 特別支援:小学生98名 2,222,105円, 中学生34名 1,581,015円								
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大事業	事業名				
		10	01	03	06	学びの広場サポートプラン事業				
		10	01	03	07	学校教育支援事業				
		10	02	02	02	就学援助費(小学校)				
		10	03	02	02	就学援助費(中学校)				
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
予算額(千円)	18,524	18,197	15,900	18,194	16,607	-	-			
決算額(千円)	14,245	14,476	14,260	13,127	-	-	-			
執行率(%)	76.9%	79.6%	89.7%	72.2%	-	-	-			
施策の目標	①	不登校児童生徒(30日以上欠席)出現率	年度	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 目標値	令和3年度 目標値	令和4年度 目標値
			小学生	0.48%	0.56%	0.99%	1.01%	0.29%	0.25%	0.20%
	中学生	3.36%	3.89%	3.60%	4.53%	2.99%	2.89%	2.80%		
	②	就学援助に関する周知の回数	2回	1回(新入学保護者説明会)	14回(就学時健診, 新入学説明会等)	14回(就学時健診, 新入学説明会, 広報紙)	3回	3回	3回	
③										

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	C	就学援助に関する周知回数目標値を大幅に増やし、家庭の経済状況等の影響を受けることなく学校生活を送ることを支援した。不登校児童生徒数の出現率では令和元年度目標値(小学生0.34%, 中学生3.08%)を上回った。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	近隣市町村に先駆けて、新設援助費目を追加したり、急な申請に対しても、随時認定を行うなど早急な対応を行っている。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	B	相談活動や就学支援等の充実が見られた。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	不登校が増加しているため、未然防止と初期対応に力を入れていく必要性がある。タブレット学習において、家庭で費用がかかるような場合は支援策を打ち出したい。また、国の動向に注視し、援助費目の追加や増額など臨機応変な対応を行うとする。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	①不登校児童生徒(30日以上欠席)出現率については、中学校で増加している。 ②就学援助に関する周知の回数については、市内全小学校の就学時健診で直接、保護者に説明を行った。入学説明会においても就学援助制度の案内を行った。広報紙では2回、記事を掲載した。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	「成果に対する評価」をC評価としているが、いじめに対する相談体制や就学支援をしっかりと積極的に事業実施していることから、一定の成果があったと評価できる。 適応指導教室のハーモニーを園庭が広い元気っ子幼稚園に場所を移設したことで、不登校児童生徒の遊びや活動の幅が広がっていることから、美野里地区にあるパステルについても交通の便がよい堅倉幼稚園に移動することも検討してみしてほしい。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	不登校問題は、非常に多種多様にわたっており、これをやったからすぐ解消するというような方法はない。小学校に入った時から、計画的に進めていかなければいけない問題で、非常に学校の先生方、また協議会の皆さんが苦勞されていると思われる。少しずつ実績を積み重ねていきたい。 いじめに対する相談体制の充実、それに関する様々な事業が実施されていることは、評価したい。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名	指導室
------	-----

No.15	施策名	地域に開かれた学校の推進				教育振興計画の位置づけ	3-5		
施策の概要	目的	地域に開かれた学校を目指し、学校教育の場に適した地域の人材の活用により、学校教育活動の充実・支援を図ります。							
	取組内容	授業時における授業補助、部活動の指導補助、学校行事支援、学校環境整備、登下校の見守り等の地域人材の活用による、学校教育の充実や地域の教育力の向上に取り組めます コミュニティ・スクールの導入支援策を講じ、地域住民等が学校運営に参画するコミュニティ・スクールについて、一層の拡大・充実を図ります。 【重点事業】 ・学校支援ボランティア活用事業							
	達成すべき目標	①学校支援ボランティアの登録者数を250名以上にする。							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		【学校支援ボランティア】 ・学習支援(読み聞かせ、技術・家庭の実習補助など)150回 ・環境整備(花壇の花植え、除草作業など)33回 ・運動部活動の指導補助50回 ・図書館整備27回 ・登下校の見守り56回 ・その他10回 【コミュニティ・スクール】 ・2校でそれぞれ年3回学校運営協議会を開催した。							
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大	事業名			
		10	01	03	04	学校ボランティア活用事業			
		10	02	01	01	小学校運営経費			
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額(千円)	470	384	530	533	533	-	-	
決算額(千円)	386	297	335	347	-	-	-		
執行率(%)	82.1%	77.3%	63.2%	65.1%	-	-	-		
施策の目標	指標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
	①	学校支援ボランティア登録者数	225名	213名	204名	183名	242名	246名	250名
	②								
	③								

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	C	学校支援ボランティア登録者数については、令和元年度目標値(237名)を下回った。参加者の中に未登録者がおり、登録を行うことにより数値の向上が実現できる。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	各小中学校において多くの支援をいただき、安心・安全な学校づくりに貢献していただくことができた。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	C	各学校に活用拡大の周知をしていく必要がある。未登録の人材の登録を進めていく。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	学校支援ボランティア活用事業を活用している学校は11校だった。各学校で、地域の方々が登録をしていないが様々なことに協力してくれているので、今後は全学校で登録してもらうように学校に周知をしていく。また、コミュニティ・スクールについては、今後全小中学校への導入を目指す。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	C A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	①学校支援ボランティア登録者数については、年々減少傾向にあり、目標値を達成することができなかった。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	C A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	ボランティアの登録数が問題ではなく、各学校のニーズに対するボランティア参加率を重視しないといけない。登録者数が増えても必要な時にボランティアに協力を得られなければ意味がない。コーディネーターの配置がないために、教頭や教務主任等の負担が生じている。 また、令和3年度のコミュニティスクール導入でボランティアのニーズが高まることを見込まれるため、車の両輪のように地域と学校をうまく回す必要がある。ボランティア未登録者の参加もあるが、成果に対する評価の理由や予算の執行率が低いことを踏まえ評価する。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	C A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	学校ボランティアについて、本当に必要な時に協力依頼をするべきで、無理に地域住民を活用しようとすると、かえって弊害が生じてしまう可能性がある。 また、学校の統廃合を進めていることで地域が広範囲になり、地域と学校との関係が希薄になることが考えられる。 これからは、地域の住民の方との参画の在り方、学校経営に対する参画の在り方について、地域住民と学校、市でよく検討する必要がある。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名	生涯学習課
教育振興計画の位置づけ	4-1

No.16	施策名	生涯学習社会の実現
施策の概要	目的	市民が生涯にわたり、いつでも自由に学習を行えるよう、学習の機会の充実を図るとともに、学習成果を地域や社会のなかで発表・活用し、より充実した学習活動となるよう取り組みます。また、各種団体間の連携・協働を支援するとともに、学習環境の整備に努めます。
	取組内容	市民のリクエストによる講座だけでなく、新たな社会的ニーズを反映させた市民講座等を開講することや、市民講座を終了した受講生が主体となり企画・運営し講座を開設することで、新たな仲間づくりや生涯学習活動への機会を提供する。また、60歳以上の人を対象に、実生活に即した教養の向上や、趣味の活動、社会参加による生きがいを高めることを目的として、移動教室・講演会等を実施する。 生涯学習人材バンクの利用を促進するとともに、地域で活躍する新たな人材の確保や指導者の育成及び人材交流の機会を設ける。また、市民の生涯学習活動を支えるため、各種生涯学習施設や学校、地域の団体、市民活動団体等が相互のネットワークを強化し、協働による体制づくりを行う。 【重点事業】市民講座等の内容充実、自主講座団体育成、おやこDE事業など
	達成すべき目標	①市民自らが行う自主講座の開催支援等により、自主講座団体数を160団体以上とする。 ②市民と行政が行う市民講座数を41講座以上とする。 ③学習成果の活用・活躍の場としての人材バンク登録者数を37名以上とする。 ④市民講座等修了者の継続的活動の推進を図る公民館施設利用者会議等の実施数を4回以上とする。

令和元年度事業内容及び工夫改善事項	【玉里公民館】市民講座を修了した受講生が主体となり、企画運営している自主講座の支援を行い、54団体が活動し、計750件、5,545人の利用があった。市民講座については、地域性やニーズにあった講座を開設し、10講座、102人の参加があった。【小川公民館】住民の自主的な学習・文化活動を支援し学習・文化活動の機会の充実に努め、生涯学習に対する参加意欲の高揚を図るため、市民講座を開催し、11講座計132名の参加があった。自主講座は、58団体が計1,202件、11,264名が小川公民館利用し、市民が生涯学習の場として活動した。【美野里公民館他4施設】住民の自主的な学習・文化活動を支援し学習・文化活動の機会の充実に努め、生涯学習に対する参加意欲の高揚を図るため、市民講座を開催し、14講座計207名の参加があった。また自主講座の支援を行い、89団体が活動し、計26,393件、人の利用があった。人材バンクの登録案内を行い、新たな人材確保に努めたい。
-------------------	--

施策の経費	予算事業名	款	項	目	大事業	事業名		
		10	05	02		公民館事業		
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	予算額(千円)	45,693	45,804	57,984	63,927	42,203	-	-
	決算額(千円)	43,032	43,733	56,032	62,063	-	-	-
執行率(%)	94.2%	95.5%	96.6%	97.1%	-	-	-	

施策の目標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
	① 自主講座団体数	153団体	222団体	221団体	201団体	158団体	159団体	160団体
	② 市民講座[定期]の講座数	33講座	35講座	35講座	35講座	39講座	40講座	41講座
	③ 人材バンクの登録者数	34名	35名	38名	38名	35名	36名	37名
	④ 指導者の育成(会議開催回数)	2回	2回	2回	0回	3回	3回	4回
	⑤ 公共バス(循環バス)の利用者数	市内循環 20,244人 地域循環 2,704人	市内循環 22,034人 地域循環 3,997人	市内循環 22,018人 地域循環 4,353人	市内循環 21,393人 地域循環 4,079人	市内循環 21,415人 地域循環 3,235人	市内循環 21,707人 地域循環 3,367人	市内循環 22,000人 地域循環 3,500人

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	B	自主講座団体数、人材バンクの登録者数については、目標値に達しているが、市民講座数が伸びなかった。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	地域性やニーズにあった講座の開設、自主講座団体への支援を行い、仲間づくりや生涯学習活動の場を提供した。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	C	人材バンクの登録者数を増やすために、広報紙、ホームページ等を利用し人材の確保に努めたい。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	市民講座の募集は、パンフレット等で周知しているが、参加する人が固定される傾向にあるため、ホームページなど別の周知方法も検討したい。また、芸術や文化の講座だけでなく、地域の防災意識を高める講座等も検討していきたい。 人材バンクの登録者を増やすために、広報活動を行う。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	C A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	<p>施策目標である①自主講座団体数については、現在201団体が活動しており、令和4年度の目標値に達成している。</p> <p>②市民講座は、各館で行っているが講座数を増やすことはなかなか難しい。各館で毎年少しずつ増やしていきたい。</p> <p>③人材バンクの登録者数は、伸びなかったため人材の確保に努めたい。</p> <p>④指導者の育成については、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会議が開催できなかった。</p>	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価		
	C A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	<p>市民講座の参加者が固定化されていることから、周知方法を変更し、いろいろな方に参加させようと検討していることは、とても評価できる。</p> <p>講座数の多い少ないで評価するのではなく、受講された方の満足度を考慮すべきで、そこに指標を置くことを今後は検討してもらいたい。</p>	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	C A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	<p>市民講座の受講者が固定され、興味を持った方が受講しにくかったり、定員オーバーで受講できないとならないよう、参加の機会の公平性を考え、新規の方を優先することも検討してほしい。</p> <p>また、市民講座を受講しやすくするよう、公共交通機関との連携を図る必要があると思われる。コロナ禍の中でパソコンや携帯電話を使ったオンライン講座での受講も検討が必要である。</p>	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名

生涯学習課

No.17	施策名	知識の醸成と価値創造の場の充実			教育振興計画の位置づけ	4-2			
施策の概要	目的	市民の人生をより豊かなものにするための読書活動を推進します。また、図書館サービスの充実を図ります。							
	取組内容	<p>市民の図書館利用促進のため、テーマに沿った講師を呼び、図書館を利用した講座や講演会を開催する。</p> <p>乳幼児の豊かな感受性と創造力を養うとともに、本を読むことの楽しさを伝えるため、おはなし会を実施する。また、生後4～5か月児の健診時に絵本のプレゼントと絵本の読み聞かせを行う。</p> <p>市民の学習や研究、調査に必要な情報・資料の収集を支援するため、レファレンスサービスを実施する。</p> <p>【重点事業】 図書館講座、おはなし会、ブックスタート、レファレンスサービス、ブックスタートボランティアの育成、読み聞かせ講座</p>							
	達成すべき目標	①市民の読書活動を推進する図書館を利用した講座を3回以上実施する。							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		<ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会 毎月 (小川:第2・4土曜日, 玉里:第3土曜日, 美野里:第4土曜日) 延619名 ・こどもの読書週間企画展 4/3～5/12 ・ビブリオトーク 2日 8名 ・ガラスアート講座 2日4講座 52名 ・おりがみ教室 2日4講座 38名 ・子ども図書館員体験 2日2講座 15名 ・ブックスタート事業 290名 ・移動図書館 利用者数1,333名, 貸出数6,334冊を実施した。 							
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大事業	事業名			
		10	05	03	03	3 図書館運営費			
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額(千円)	35,754	36,444	35,935	29,948	13,587	-	-	
	決算額(千円)	34,753	36,275	35,676	27,057	-	-	-	
	執行率(%)	97.2%	99.5%	99.3%	90.3%	-	-	-	
施策の目標	指標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
	①	図書館講座	-	2講座	4講座	3講座	3講座	3講座	3講座
	②								
	③								

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	B	3講座(延べ10回)を実施した。
	A 目標値以上 C 未達成(70%以上) B 達成した D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	延べ105名の参加があり、好評であった。
	A 大いに充実 C あまり充実していない B 充実した D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	B	好評な部分は残しつつ、内容・対象者について充実を図っていく必要がある。
	A 必要なし C 必要あり B 当面必要なし D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	新型コロナウイルス感染症防止のため、実施が困難となることも考慮し、新たな方策、内容を検討していく必要がある。また、対象者の幅を広げた取り組みも必要である。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	施策の目標である①市民の読書活動を推進する図書館を利用した講座を3回以上実施については、R4年度の目標値を達成している。引き続き感染症対策を取りながら読書活動を推進し図書サービスの充実を図っていく。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	利用者数を伸ばすため、移動図書館の巡回コースや巡回場所、巡回時間の見直しを柔軟に行っていることは評価できる。今後は市ホームページを見やすくすることはもちろん、新たな周知方法を検討してほしい。 また、1校ごとの蔵書数には限界があることから、団体貸出では各小中学校と連携し、これまで以上に児童が図書を手にする機会が増えるよう検討してほしい。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	新型コロナウイルス感染症を踏まえオンラインでの読み聞かせを検討していただきたい。 夏休みや冬休みなどに、中学生による読み聞かせ会を計画したことがあるが、大人顔負けの準備をし、大人顔負けの読み聞かせをする。希望者を募って、そのような機会を増々設けてほしい。 日本人は、読書しないという数値が固定化している。いかに増やしていくか図書館関係の方は非常に苦勞されていると思う。いろいろなアイデアを練ってもらい、ぜひ、読書好きな児童生徒が増えるよう検討していただきたい。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名	生涯学習課
教育振興計画の位置づけ	4-3

No.18	施策名	文化芸術の創造・発信							
施策の概要	目的	市民の文化芸術活動の充実に努めるとともに、文化芸術に触れる機会を提供します。また、文化財や地域に根ざした伝統文化の保護・保存に努めるとともに、その積極的な活用により郷土への愛着を育みます。							
	取組内容	<p>市民が参加しやすい、参加して楽しい、そして、質の高い音楽事業を提供するため、プロのアーティストと市民ボランティアによる参加型の事業を推進する。本市産業と地域文化の振興を目的として市文化協会及び文化団体の参加による「市民文化祭」を開催する。</p> <p>収蔵品及び図書等の整理・分類に努め、収蔵施設を確保し、適正な保存、収蔵品の種類に応じた一括管理を行う。地域の歴史や文化を次代に伝えるため、分かりやすく充実した常設展示にリニューアルする。発掘調査等で出土した遺物を展示する速報展を開催する。</p> <p>生涯学習活動の推進と文化の振興を図るため、コスモスを中心に、市民が主体となって実施するプロジェクトの支援に努める。市民の文化芸術活動を支えるボランティア組織を育成・支援する。</p> <p>【重点事業】 収蔵施設の確保、常設展示リニューアル事業、出土品展の開催など</p>							
	達成すべき目標	<p>①住民の文化活動への参加しやすい仕掛けをつくるとともに様々な支援を図り、住民参加・住民参画者数の増を目指す。</p> <p>②地域の伝統文化の継承のための特別展・企画展等の開催回数の維持を目指す。</p> <p>③文化ホール(3館)の活動をサポートする住民参画者数の増を目指す。</p>							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		<p>コスモスやその周辺施設の活性化のため、コスモスプロジェクト委員が企画した様々な催しの支援を行った。コスプロ企画の来館者数は、1,100名余りとなった。また、住民参加のワークショップを実施し、集大成としてホールで公演を行い、1,200名ほどの来館者があった。</p> <p>分散して収蔵している収蔵品(文化財)の整理作業を行い、玉里史料館においては収納棚を新規購入して、図面および写真を一括して収納するスペースを設けた。また、展示ケース内の照明器具の安定器の修繕工事を実施した。玉里史料館において、参考展「写真にみる茨城の海軍航空隊」、ミニ展示「昭和49年茨城国体回顧」、ケースギャラリー展「取手山館跡」の展示会を開催して合計300名ほどに入館者があった。</p>							
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大事業	事業名			
		10	05	01		社会教育活動総合事業			
		10	05	03		史料館運営費			
		11	06	03		文化財調査・管理経費			
	10	05	05		玉里史料館施設維持管理費				
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額(千円)	16,867	13,984	14,432	12,775	6,078	-	-	
決算額(千円)	14,930	11,763	12,951	11,518	-	-	-		
執行率(%)	88.5%	84.1%	89.7%	90.2%	-	-	-		
施策の目標	指標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
		① 市内3館の委員会や文化ボランティアなどの住民参画者数	398人	コスプロ 10人	コスプロ 11人	コスプロ 12人	433人	441人	450人
	② 特別展・企画展等の開催数	3回	2回	2回	3回	2回	2回	維持	
	③ 各サポーターの住民参画者数	212人	コスモス 7人	コスモス 8人	コスモス 9人	224人	227人	230人	

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	B	コスモスプロジェクトの委員、サポーターについてはわずかながら増となった。特別展等の展示会は小規模ながら3回開催することができ、令和元年度目標値(2回)を上回った。
	A 目標値以上 C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	様々な催しものを企画しコスモスの活性化に貢献できた。 展示会の規模および内容が必ずしも充実したものではなかった。
	A 大いに充実 C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	C	展示会の担当が専念できる体制づくりが必要である。
	A 必要なし C 必要あり B 当面必要なし D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	現在、コスモスのみの企画が多いため、コスモスプロジェクトの企画に周辺施設を利用したものを取り入れていきたい。 新たな文化財収蔵施設の確保、小川資料館と玉里史料館の抜本的なリニューアル計画の策定を行う必要がある。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	C	施策目標である①市内3館の委員や文化ボランティアなどの住民参加者数については、コスモスプロジェクト委員を定数の15名に増やしたい。また③各サポーターの住民参加数も増やしていきたい。 文化財収蔵施設が確保できない状況であることから、計画の進捗が図ることができない。現在策定中の小美玉市公共施設個別施設計画(令和3年3月公表予定)を踏まえ、空き施設が活用できないか検討していく。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B	令和元年度事業内容のとおり、来館者が見やすいよう収蔵品を整理し、収納棚を新たに設け、展示ケース内の照明器具の修繕を行ったことはとても評価できる。 目標達成のため着実に事業を実施していることから、一定の成果が出ていると評価できる。 なお、小川資料館について、すばらしい展示物があり広さもあることから今以上に施設を活かしてほしい。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	C	資料の保存や発掘に人手が足りないということであるが、非常に成果が見えにくい分野である。地域の方が集めてくれた文化財資料もあると思われる。文化財の保存は、非常に大変だと思うが、文化芸術の根っこになるところであるため、継続した取組みを願う。 市内にある歴史的な文化財や芸術的な文化財について、市民に広くPRできるような環境整備を進めてもらいたい。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名	スポーツ推進課
教育振興計画の位置づけ	5-1

No.19	施策名	子供のスポーツ機会の充実							
施策の概要	目的	幼児期から学童期, 青年期の子供たちが心身ともに健やかに成長するよう, また, 子供の運動・スポーツ活動が豊かなものとなるよう, その充実に総合的に取り組みます。							
	取組内容	<p>子供たちがスポーツに触れ合うきっかけをつくとともに, 運動好きの子供を育て, 意欲や主体性, 向上心などの醸成を目指すため, トップアスリートを夢先生として迎え, 夢を持つことの大切さや, スポーツの素晴らしさを学ぶ機会を創出する。</p> <p>また, 総合型地域スポーツクラブの活動を支援し, 運動・スポーツをする環境の充実を図る。スポーツ少年団の活動を支援し, 運動・スポーツをする環境の充実を図る。</p> <p>【重点事業】 プレ・すぼ〜つ教室, 夢先生派遣事業, 総合型地域スポーツクラブ活動支援, スポーツ少年団活動支援</p>							
	達成すべき目標	<p>①未就学児を対象とするプレ・すぼ〜つ教室の延べ参加者数を6,400人以上とする。</p> <p>②スポーツ少年団の活動を支援し団として活動する種目数の9種目以上とする。</p>							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		<p>親子スキー教室(参加者68人), サッカー教室(講師 ACミラン 参加者約200人)を実施。小川海洋センターは指定管理を導入し, スポーツをする環境, 機会の充実を図った。総合型地域スポーツクラブである小美玉スポーツクラブへ委託し, 5種類の教室(参加者延べ5,411人)を実施した。走る, 跳ぶ, ブール運動, 体操等を体験出来るプレ・すぼ〜つ教室, その他専門的にスポーツを出来るアド・すぼ〜つ教室を実施し, 延べ4,591人の参加があった。</p> <p>また, 小学校5年生, 中学校2年生を対象とした「夢の教室」を実施した。トップアスリートを夢先生として向かえ, 夢の実現に向け子ども達の背中を押せるような授業を展開することが出来た。</p>							
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大事業	事業名			
		10	06	01	02	保健体育事務費			
		10	06	01	03	体育振興活動経費			
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額(千円)	8,118	8,414	9,981	9,087	9,387	-	-	
	決算額(千円)	7,580	7,706	9,450	8,338	-	-	-	
執行率(%)	93.4%	91.6%	94.7%	91.8%	-	-	-		
施策の目標	指標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
	①	プレ・すぼ〜つ 教室参加者数	5,783人	4,439人	4,197人	3,633人	6,194人	6,297人	6,400人
	②	スポーツ少年団活動支援	8種目	7種目	7種目	8種目	9種目	9種目	9種目
	③								

※令和2・3年度目標値は, 平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	C	様々なスポーツ教室を実施し、スポーツをする機会や触れ合う機会の拡充をした。なお参加者数については、台風や新型コロナウイルス感染症拡大防止によるイベント自粛の影響により、未達成となった。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	通年で教室を開催する等、参加する機会を増やした。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	C	開催する教室の内容を精査し、より参加しやすく興味が沸くような教室の開催する。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等		<p>単発で終わる教室以外にも、継続してスポーツに触れ合うことが出来る教室の開催を検討していく必要がある。その為に、指導者の育成や確保にも力を入れていく。情報を市のホームページや広報誌、LINE等を利用して情報の更なる発信をしていく。</p> <p>また、総合型地域スポーツクラブである小美玉スポーツクラブは、会員数は増加傾向にあるが、まだまだクラブの認知度を上げていく必要がある。</p> <p>「夢の教室」については、引き続き実施をしていくための財源確保に努めていく。</p>	
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	B	<p>施策の目標である①幼児期における運動・スポーツ機会の充実については、スポーツ教室(水泳教室、親子スキー教室、プレ・すぽ〜つ教室)を実施して、子どもたちがスポーツに触れ合うきっかけをつくるとともに、親子で参加出来る機会を提供してきた。</p> <p>②子供を取り巻くスポーツ環境の充実については、8種目25団体の登録があり、昨年度より1団体増加した。スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブの総合的な活動支援、スポーツ優秀選手の表彰等、更なるスポーツをする環境の充実を図っていく。</p>	
	A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い		
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B	<p>台風や新型コロナウイルス感染症拡大により、公共施設や学校施設も使えない外的要因で目標値が未達成となったことであれば、成果に対する評価は自己評価が出来ないと思われるので、斜線(評価不可能)とすることが適当である。</p> <p>着実に事業を実施していることで、小美玉スポーツクラブの会員数が増加傾向にあることは評価できる。</p>	
	A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い		
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B	<p>子どもたちは学校生活や家庭で、いろいろな予定が詰まっている中、学校側と調整しながら夢先生事業などを実施されていることは評価できる。</p> <p>日本の子どもたちの様子を見ると、親の興味によって、子どもたちがやる種目が、固定されてしまう。サッカーならサッカー、野球なら野球だけとなる。公的に見るとやはり子どもたちには、広くいろいろなスポーツを経験させてあげたいという思いがある。これからのいろんな事業計画を立てて、子どもたちに多種多様なスポーツを経験させてほしい。</p>	
	A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い		

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名	スポーツ推進課
教育振興計画の位置づけ	5-2

No.20	施策名	生涯スポーツ活動の推進				担当課名	スポーツ推進課		
施策の概要	目的	若者や働く世代が気軽に参加できる施策の強化、高齢者が地域のなかで安全に健康づくりや運動・スポーツができる環境の充実、そして障がいがある人もない人も、すべての市民が参加できる環境の整備を図ります。							
	取組内容	若者世代が気軽に参加できるようなスポーツ教室や働く世代が気軽に参加できるような開催時間や開催種目等、ニーズに合ったスポーツ教室を実施し、スポーツ体験活動を行う機会の充実を図る。各種団体・民間企業等と連携して若者世代が気軽に参加できるような多様なイベントを開催し、スポーツ体験活動への参加促進を図る。誰もが気軽に参加できるような障がい者スポーツの楽しさや魅力の発信を目的としたスポレクデー等の体験イベントを開催し、相互理解を深める。積極的に情報を求めている市民に対してはLINEによるイベント・教室等の情報発信を行うとともに、LINEの利用者数(お友達登録者数)を増やす。 【重点事業】 若者世代を対象としたスポーツ教室、働く世代を対象としたスポーツ教室、LINEを利用した情報発信、若者世代を対象とした各種イベントの開催など							
	達成すべき目標	①若者世代を対象にしたスポーツ教室・イベントの開催を2回以上実施する。 ②高齢者大学で実施している健康づくりを目的とした教室の参加者数を500人以上とする。 ③小美玉スポレクデーの参加者数を5,900人以上とする。 ④広く市民に情報媒体の周知を行い、スポーツ推進課公式LINEアカウントのお友達登録者数を3,000人以上とする。							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		誰もが、いつでも、どこでも気軽に参加しやすい環境の充実として、ヨガ教室、水泳教室、ソフトテニス教室、バレエ教室、ターゲットバードゴルフ教室を実施した。更に、高齢者や障がい者も含め、生涯続けていくことが出来るスポーツを選択出来るような機会として、ニュースポーツ大会やプレ・すぼ〜つ教室を実施した。小美玉スポレクデーについては天候不良により開催が出来なかった。情報発信についても、LINEや市ホームページを活用しイベント・教室等の案内をし、広く周知することに努めた。							
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大	事業名			
		10	06	01	02	保健体育事務費			
		10	06	01	03	体育振興活動経費			
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額(千円)	1,163	1,065	1,028	1,028	1,028	-	-	
	決算額(千円)	888	817	932	931	-	-	-	
執行率(%)	76.4%	76.7%	90.7%	90.6%	-	-	-		
施策の目標	指標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
	①	若者世代を対象としたスポーツ教室	-	0回	0回	0回	1回	1回	2回
	②	健康づくりを目的とした教室の参加者数(延べ)	482人	506人	472人	415人	494人	497人	500人
	③	小美玉スポレクデーの参加者数	4,378人	4,592人	5,596人	0人 台風のため中止	5,393人	5,646人	5,900人
	④	お友達登録者数(累計)	1,832人	2,056人	2,173人	2,293人	2,611人	2,805人	3,000人

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	C	初心者でも参加可能な教室の実施、気軽に参加できる環境の整備をした。なお参加者数については、台風や新型コロナウイルス感染症拡大防止によるイベント自粛の影響により、未達成となった。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	継続した教室の開催は実施出来た。老若男女、障がいの有無に関わらず、様々なスポーツ体験が出来る小美玉スポレクデーが天候不良により中止となってしまった。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	C	参加者の少ない教室は見直し、参加者のニーズを把握する。興味を持ってもらえるような教室の実施していく。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	参加者が少ない教室は見直しを検討し、生涯にわたって健康で継続できるスポーツの紹介や、障がい者スポーツを含め誰もが参加しやすい環境づくりをし、年齢問わずコミュニティを形成できるような教室の開催していく。また、積極的な情報発信による周知を図っていく。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	施策目標である①若者・働く世代②高齢者③障がい者へのスポーツの推進について、ヨガ教室・水泳教室・ターゲットボードゴルフ教室・バレエ教室等、全ての世代で参加することが出来る教室を開催した。全ての世代で楽しめる教室の実施には検討しなければならない課題もあるが、社会福祉課と連携し、障がい者スポーツ・レクリエーション教室も実施し、体力の向上や交流等、社会参加の促進を図れた。④スポーツ活動情報等の提供については、市のホームページやLINE等により、広く周知を図った。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	台風や新型コロナウイルス感染症拡大などの外的要因で目標値が未達成となったことであれば、成果に対する評価は自己評価が出来ないと思われるので、斜線(評価不可能)とすることが適当である。 外的要因を除けば施策目標が右肩上がりに増えていることは評価できる。また、登録者全員に同じ案内をするのではなく、登録者の好みに応じた案内をすることを検討していることについても評価できる。限りなくA評価に近い内容である。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	新型コロナウイルス感染症拡大などで目標値が未達成となったが、健常者と障がい者を区別することなく、すべての市民を対象に生涯スポーツ活動を進めていることは評価できる。 これからも多種多様な計画を立て、コロナ禍での運動不足解消につながるよう、市民のニーズに対応した事業に期待したい。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名 スポーツ推進課

No.21	施策名	スポーツ環境の充実				教育振興計画の位置づけ	5-3		
施策の概要	目的	スポーツ環境の充実を目指し、スポーツ団体活動の支援・充実を図るとともに、指導者やボランティアの発掘・育成を目指した取組を強化します。また、総合型地域スポーツクラブの充実に取り組みます。							
	取組内容	各団体の活動概要や主催する大会・教室等について、市のホームページや情報媒体を活用して積極的にPRをするなど、支援に努める。総合型地域スポーツクラブの利用促進に努め、認知度を上げ会員数を増やす。全国大会や関東大会等に出場したスポーツ優秀選手に対して表彰・奨励を行う。競技力向上や活動意欲の向上を目的とし、トップアスリートを招聘したスポーツ教室等を開催したり、「小美玉スポレクデー」や「歩く会」、「ニュースポーツ大会」等の“するスポーツ”の機会を提供することにより、誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境を充実させる。 【重点事業】 体育協会支援、スポーツ少年団支援、総合型地域スポーツクラブの利用促進、スポーツ優秀選手・優秀団体表彰、トップアスリートスポーツ教室など							
	達成すべき目標	①情報媒体を用いて積極的にPRをし、会員数の維持継続を目指す。 ②市民のスポーツ活動を充実させることにより、全国レベルで活躍する市民を支援し、表彰選手数30人以上、団体数12団体以上とする。 ③トップアスリートスポーツ教室の開催数を5回以上とする。							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		各団体の活動や、主催する大会・教室等について、市のホームページやSNSを活用し、情報の発信をしてきた。全国大会や関東大会に出場したスポーツ優秀選手には表彰や必要な支援を行い、更なる競技力の向上や、活動意欲の向上を図ってきた。 また、「小美玉スポレクデー」については天候不良のため中止となってしまったが、「歩く会」、「ニュースポーツ大会」や「駅伝大会」を実施し、スポーツに触れ合う機会や、応援することから参加や親しみを持ってもらえる機会を図った。							
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大事業	事業名			
		10	06	01	02	保健体育事務費			
		10	06	01	03	体育振興活動経費			
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額(千円)	11,192	9,573	10,060	9,963	10,548	-	-	
	決算額(千円)	9,309	9,516	9,261	8,786	-	-	-	
執行率(%)	83.2%	99.4%	92.1%	88.2%	-	-	-		
施策の目標	指標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
	①	体育協会加盟団体会員数	3,150人	3,379人	3,421人	3,147人	3,304人	3,469人	継続維持
	②	スポーツ優秀選手・団体表彰数	団体9 個人26人	団体7 個人34人	団体4 個人37人	団体9 個人47人	団体10 個人28人	団体11 個人29人	団体12 個人30人
	③	トップアスリートスポーツ教室の開催数	4回	1回	3回	1回	4回	4回	5回

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	B	各団体が実施するスポーツイベントの情報発信、スポーツ推進委員との連携、スポーツ少年団の指導者を対象とした研修を実施した。 なおスポーツ教室開催数は、感染症拡大防止によるイベント自粛の影響により、未達成となった。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	地域で活動するスポーツ団体及び、指導者の育成に積極的な参加を求め、資質向上を推進した。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	B	指導者の育成や人材の確保、研修内容の充実を図る。情報発信を強化し、広く周知していく。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	各団体が実施するイベント等の情報発信を強化し、スポーツ推進委員との連携を図り、市民のスポーツ活動を促進していく。引き続きスポーツ少年団の指導者研修を実施し、新たな人材の確保や育成を図る。 また、総合型地域スポーツクラブの利用促進のため、幼稚園巡回教室や放課後子どもプラン訪問等、認知度を上げ、会員数の増加に繋げる。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	①スポーツ活動を支援する体制の整備について、各団体のスポーツ教室やスポーツイベントを、市ホームページやLINE、広報誌等で周知を図ってきた。また、人材育成については研修を開催し、高い資質を持った指導者の育成を支援してきた。 ②特色あるスポーツの施策の推進については、全国大会や関東大会等に出場した選手や団体に表彰を行い、活動意欲の向上を図った。 ③多様なスポーツ交流の推進については、有名クラブの教育方針に基づいた「サッカー教室」を実施した。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	市長の表敬訪問、スポーツ表彰、トップアスリートの教室は、子どもたちにとって意欲の喚起になっている。プロに教わることで気付きが生まれている。 今後は、幼稚園巡回教室や放課後子どもプランに訪問し、事業の周知を図り、会員数の増加につなげてほしい。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	多くの大人や子どもが参加できる事業と、参加者を限定した事業を区別していることで、市民がスポーツ活動に参加しやすくなっていることは評価したい。これからも子供たちが夢を持って、スポーツに勤しむ環境を充実して欲しい。 高齢世代の方が増えていく中で、市民のスポーツのあり方は、これからも検討が必要である。	

令和2年度(令和元年度事業)点検評価シート

担当課名 スポーツ推進課

No.22	施策名	スポーツ施設の充実				教育振興計画の位置づけ	5-4		
施策の概要	目的	市民が安全で快適にスポーツ活動を楽しめるよう施設の安全確保に努めるとともに、利用者の利便と質の向上を目指した施設の整備・充実に努めます。							
	取組内容	<p>誰もが安全で快適にスポーツに親しめるよう、施設改修計画(長寿命化計画)を策定し、市内スポーツ施設の改修・バリアフリー化などを実施し、利用者の利便性の向上を図る。</p> <p>また、施設の設備更新や整備を推進するとともに、平成31年(2019年の茨城国体開催を契機とし、誰もが利用しやすい施設づくりに努める。</p> <p>【重点事業】 施設改修計画(長寿命化計画)の策定、スポーツ施設等の設備更新・整備</p>							
	達成すべき目標	①施設・設備の充実に努め利用者数を207,600人以上とする。							
令和元年度事業内容及び工夫改善事項		<p>安心で安全に施設を利用していただくため、希望ヶ丘公園の街路灯、トイレの改修、ナイター照明等の工事を行った。</p> <p>また、シルバーに委託し、施設内外の環境美化にも取り組んだ。</p>							
施策の経費	予算事業名	款	項	目	大事業	事業名			
		10	06	02	01	小川運動公園施設維持管理費			
		10	06	02	02	希望ヶ丘公園施設維持管理費			
		10	06	02	03	市内体育施設維持管理費			
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	予算額(千円)	102,561	192,697	177,437	105,881	90,876	-	-	
	決算額(千円)	101,386	161,705	164,505	104,022	-	-	-	
執行率(%)	98.9%	83.9%	92.7%	98.2%	-	-	-		
施策の目標	指標	年度	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度目標値	令和3年度目標値	令和4年度目標値
	①	スポーツ施設利用者数(年間延べ)	173,900人	159,469人	158,849人	158,674人	196,370人	201,980人	207,600人
	②								
	③								

※令和2・3年度目標値は、平成28年度実績値と令和4年度目標値を按分して算出

事業の評価項目		自己評価	主な理由
成果に対する評価	施策の目標値に対して、期待した成果を達成したか	C	玉里運動公園及び小川海洋センターについては指定管理者を導入し、市内スポーツ施設を快適で安心・安全に利用できるよう施設管理を行った。なお利用者数は、感染症拡大防止のため施設の使用制限をしたことで未達成となった。
	A 目標値以上 B 達成した C 未達成(70%以上) D 未達成(70%未満)		
取組に対する評価	施策の取組内容は、充実したものであったか	B	施設利用する上で緊急性が高いものから修繕し、利便性の確保を図った。
	A 大いに充実 B 充実した C あまり充実していない D 全く充実していない		
改善の必要性	今後の施策実施に当たり、方法等に改善の必要はあるか	C	老朽化が進んでいる施設もあり、利用状況を調査し、必要な財源を確保をしていく。
	A 必要なし B 当面必要なし C 必要あり D 大いに必要あり		
課題及び今後の方向性等	老朽化している施設の修繕及び、利用者が安心して安全な施設となるよう設備を充実させていく。また、バリアフリー化を促進させてより良い環境でスポーツが出来るようにする。		
教育振興計画の目標達成に向けての進捗状況	評価	評価理由	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	スポーツ施設環境の充実について、指定管理者を導入した管理運営を行っていることにより、施設を利用する上での問題点の把握も出来やすくなり、指定管理者との連携により、迅速な修繕も行えるようになった。誰もが利用しやすいスポーツ施設を目指し、ナイター照明の修繕やトイレの改修工事等、その他細やかな修繕にも対応している。大規模な改修を伴うものについては、利用頻度等調査の上、判断していく。	
教育委員会の委員及び教育長の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	新型コロナウイルス感染拡大防止で公共施設が開けられない時期は、指定管理者で自宅でもできる体操動画をユーチューブに配信するなど、コロナ禍でもできる活動を考え、心身のリフレッシュや運動不足の解消に努めていたことは評価できる。	
外部点検・評価会議の評価	評価	評価に関する意見	
	B A 確実な成果 B 一定の成果 C やや低い D 低い	これから策定される公共施設の個別施設計画と限られた予算を踏まえ、施設のバリアフリー化を進めてほしい。スポーツ施設の状態を整えることは、事故防止にも繋がるため、ボランティアなどにも協力を得ながら、これからもよりよい環境整備に努めてほしい。	

6 外部点検・評価委員の総合評価

元木 理寿（常磐大学総合政策学部准教授）

「教育委員会の活動状況」について及び「施策の実施状況」について

1) 今年度の事業点検評価

教育委員会の活動状況、また、施策の実施状況について、今年度も2日間にわたり点検評価させていただきました。担当者の皆様のご苦勞が細部に及んでいることも確認いたしました。昨年度の事業点検評価では、当初厳しい評価をさせていただきました。担当関係者の皆様には大変ご苦勞おかけしました。しかし、今年度の点検評価表を確認させていただきますと、指標等をはじめとして新たに模索され、ご苦勞があったことを感じました。改めて点検評価表が分かりやすくなり、点検しやすくなっておりました。お礼申し上げます。

2) 事業と新型コロナウイルスの影響

①学校教育

新型コロナウイルスの影響については、未だ収まらず、学校現場において今後どのような対応が求められ、必要になってくるか、難しい状況にあると考えます。小・中学生の発達段階と教育を踏まえれば、対面での授業、向き合い方、間の取り方などは欠かせないものであると考えます。しかし、本来の、あるいは従来の学校教育のあり方からはそれる可能性はあったとしても、このような状況だからこそ、「オンライン」あるいは通信環境を用いての新たな教育手法、向き合い方についても試行していくべきではないかと考えます。新型コロナウイルスの影響を一つの時代の転換と考えて、将来に向けて考えていく必要性が出てきたということではないでしょうか。

例えば、人口減少の中で、オンラインを通じた対応は有効的な手段になるでしょうし、また、対面型でみんなの顔が見えて、質問する、意見する、発表することがプラスになっていたかも知れませんが、オンラインによって対面で、みんなの前では意見しづらい子ども達が意見できるという可能性も出てきています。教育の質、全体と部分の対応の見直しの必要な箇所が顕在化したとも言えるかと思えます。大学生などと比較すべき事ではありませんが、オンラインによって学びに真摯に興味を示すようになり、学ぶプロセスが意識するようになる事例もみられます。子ども達と教員の創造の可能性を信じるとともに、将来の学校教育のあり方についても、現場の力を見直してもらいたいと考えています。

②生涯教育

生涯教育に関する部分としては、施設、人材ともに教育委員会の枠組みを超えて市全体で取り組んでいかなければ、事業を進める上で難しくなっていると感じております。

小美玉市に限らず、日本社会は経験を否定せず、生涯教育を進めてきたと思いますが、学校教育同様に新型コロナウイルスの影響によって、今日的課題を顕在化させたと言えます。高齢者は、

通信機器の変化に対応することは簡単ではありません。しかし、この状況の中で、面倒でもパソコン、スマートフォンの利用を進めていかなければ、今後の対応が難しくなる事が予想されます。是非、小美玉市教育委員会では、年配者の経験を活かし、対面でのやり取りを理想としながらも、オンラインでの通信環境、新たなサービスを模索していただきたいと思います。また、主観的ですが、財政、人的な側面から行うことが難しかった事業もオンラインで作業を通して、直接的ではないにしろ、その可能性を信じたいと思います。

3) 総合評価

今年度の小美玉市教育委員会の活動状況、また、施策の実施状況において、教育委員会、学校現場、小美玉市の関連部署等が連携を図り、教育振興基本計画に基づいた取り組みを実行されていることを確認することができました。今回は、コロナ禍により過年度と今年度との比較に関しての話が散見されました。今年度、さらには来年度に関しては、コロナ禍により事業が大幅に変更されることが予想されます。それに伴い経年的な数値の比較が難しくなることが予想されます。ご苦勞はあるかと思いますが、対応（策）などについて特記事項としての記載なども検討されつつ、引き続きよろしく願いいたします。

以上になります。ありがとうございました。

「教育委員会の活動状況」について及び「施策の実施状況」について

ただいま元木先生が、大きく具体的にまとめてくださいましたので、私は簡単に感想的なことを申し上げたいと思います。教育委員会制度が改定になって、教育長さんの委任事項が大変多くなり、重責になられたかと思いますが、教育委員会のチーム力で、非常に迅速に、そして確実に事業が推進していただいで感謝いたします。それから総合教育会議を通して、市の行政全体での教育行政が着実に推進していますことに感謝申し上げたいと思います。教育優先の姿勢を貫いていただくことを期待いたします。

施策の実施状況についてですが、コロナウイルス感染症の広がりや、事業計画の具体性が増えていると感じますが、概ね教育振興基本計画に従って、粛々と実践・成果を挙げておられると思われます。不測の事態に応じた再考が求められてきていると思いますが、目標に向かって着実な推進を期待いたします。

以上でございます。

「教育委員会の活動状況」について及び「施策の実施状況」について

「教育委員会の活動状況」について、各事業に対する教育委員会の評価は概ね適切であると思いました。ただ数値目標を達成したかどうかというのはもちろんですが、事業の目的に沿った施策や具体的な取り組み内容につきまして、実施しただけではなく感想を含めた成果についても評価してもいい項目もあるのではないかと思います。

「施策の実施状況」につきましては、基本方針1・2にて、多種多様な施策を立てて実践していることを、概ね評価したいと思います。

命を大切に作る心の育成で、道徳教育が、考える道徳と議論する道徳に転換されるわけですが、本音で考え議論する道徳にすることが大切なことだと思います。命を大切に作る心の育成を、週1時間の道徳の時間だけではなく、毎日の生活の中で育むような実践をして欲しいと思います。

自尊感情の状況については、自尊意識を高める手だてなどの具現化した施策を立てて欲しいと思います。子どもたちの自主性、自立性など、子どもたちが主体的となって取り組む活動がなかなか見えてこないのではないかと思います。取組内容の中で、子どもたちを主体とした文言が入ってもいいのではないかと思います。自尊感情を高めるってということは、子どもたちが周りから承認される、認められることが必要であると思いました。授業改善が当たり前のようになっている時代ですけれども、具体的な方向性がなかなか見えてこないと思います。特に習熟度別につきましてはこの間も話しましたが、適切なのか疑問が残ります。それからグループでの話し合いに問題点はないか、研修によって問題解決を図っているわけですが、先生方がそれを実践するように、ぜひ、教育委員会のご指導をお願いしたいと思います。

インクルーシブ教育につきまして、個別指導計画が100%策定されていることをすごく評価できると思いました。生活介助・ソーシャルワーカーの活用については、とても重要でありますので、これからも継続して欲しいと思います。大切なのはやはり子ども同士がいかに関わり合いを持つかっていうことですから、そういう点をこれから検討していただければと思います。障がいのある子どもたちが、安心して生活できる方策もこれから講じていただければと思います。

基本方針3につきまして、児童、生徒の減少に合わせて小中学校の規模配置適正化など順調に整備されていることを、すごく評価したいと思います。子どもたちにとって最も大切な教育環境というのは、安全で安心できるということですので、通学の安全性や施設整備等はもちろんですが、直接、教育に携わる教師の資質能力の向上と、先生方が心身ともに健康であるということ、この2つが最も重要であると思います。行政や地域の人たちの教師への支援サポート体制など、そういう事業などを計画していただければ、概ね評価できるのではないかと思います。

また、その反面、教師の資質向上のための研修が当然行われているわけですが、研修内容を実

践しないと、やはり軽視しただけになってしまうので、評価をできるようにお願いしたいと思います。先生方が多くの雑務に振り回されないような、そして先生方が子どもたちへの指導に集中できるような業務の軽減を推進していただければと思います。

基本方針4・5につきましては、文化芸術活動とかスポーツ活動というのは、やはり人間が生きていく上で、人間性の豊かさを示していることだと思います。これからも地域の人々のニーズを把握し、活動にふさわしい環境を整えていただければありがたいと思います。

以上でございます。